

令和4年度 第3回
さいたま市インターネット市民意識調査
【調査報告書】

令和4年12月

さいたま市市長公室秘書広報部広聴課

インターネット市民意識調査 【調査報告書】

目次

1	調査企画とサンプル構成	1
2	調査結果	3
	SC1. 居住地	4
	【SNSに関するアンケート】	5
	Q1. 利用しているSNS（複数回答）	5
	Q2. さいたま市公式アカウントの利用（複数回答）	6
	Q3. さいたま市公式アカウントを利用して、求めていた情報が手に入ったか	7
	Q3. さいたま市公式アカウントを利用して、求めていた情報が手に入ったか（経年比較）	8
	Q4. さいたま市公式アカウントで発信してほしい情報（複数回答）	9
	【防犯カメラに関するアンケート】	10
	Q5. 自分や家族が犯罪に巻き込まれないか不安に思うことがあるか	10
	Q5. 自分や家族が犯罪に巻き込まれないか不安に思うことがあるか（経年比較）	11
	Q6. 公共の場所に防犯カメラが設置されることについてどう思うか	12
	Q6. 公共の場所に防犯カメラが設置されることについてどう思うか（経年比較）	13
	Q7. 防犯カメラにはどのような効果があると思うか（複数回答）	14
	Q8. 新たに公共の場所に防犯カメラが設置される場合、設置者に対してどのようなことに注意してほしいか（複数回答）	15
	【水道事業に関するアンケート】	16
	Q9. 水道事業について、どのような情報が知りたいか（複数回答）	16
	Q10. 水道事業に関する情報の入手方法（複数回答）	17
	Q11. スマートメーターの認知度	18
	Q12. 水道事業にスマートメーターを導入できた場合、何を期待するか（複数回答）	19
	【公開型緑地に関するアンケート】	20
	Q13. 公開型緑地を利用したいか	20
	Q14. どのような公開型緑地を利用したいか（複数回答）	21
	Q15. 公開型緑地での保全活動に参加したいか	22
	【「不妊症」「不育症」に関するアンケート】	23
	Q16. 「不妊症」「不育症」の認知度／1. 不妊症	23
	Q16. 「不妊症」「不育症」の認知度／2. 不育症	24
	Q16. 「不妊症」「不育症」の認知度（経年比較）	25
	Q17. 「不妊症」「不育症」検査の費用助成制度の認知度	26
	Q18. 不妊治療が保険適用となったことの認知度	27
	【自殺対策に関するアンケート】	28
	Q19. 国の自殺対策の基本認識の認知度	28
	Q19-1. 国の自殺対策の基本認識をどのように知ったか（複数回答）	29
	Q20. 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応（複数回答）	30
	Q21. 死んでしまいたいほどの悩みを抱えていたときの相談先（複数回答）	31
3	調査票（アンケート画面）	33

1 調査企画とサンプル構成

1-1 調査目的

市が事業を推進するにあたり、迅速に市民意識を把握することができるよう、インターネットを活用した市民意識調査を実施する。

1-2 調査地域

さいたま市

1-3 調査対象者

対象者条件：さいたま市在住の18歳～69歳の男女

18～29歳、30代、40代、50代、60代の5年年齢層において、各年齢層の男女各100サンプル、合計1,000サンプルを対象とする。

1-4 有効回答数

無作為配信により、合計1,000サンプルを回収した。

(人)

	18～29歳	30代	40代	50代	60代	合計
男性	100	100	100	100	100	500
女性	100	100	100	100	100	500
合計	200	200	200	200	200	1,000

(参考) なお、各区の有効回答数は下表の通りである。

(人)

さいたま市	男性						女性						合計
	18-29歳	30代	40代	50代	60代	計	18-29歳	30代	40代	50代	60代	計	
西区	8	5	6	5	5	29	3	9	4	7	6	29	58
北区	4	13	13	11	14	55	9	13	12	13	10	57	112
大宮区	13	15	8	13	7	56	8	7	15	16	9	55	111
見沼区	6	11	16	12	15	60	11	11	10	4	11	47	107
中央区	14	7	10	7	7	45	9	5	8	3	6	31	76
桜区	9	4	6	7	12	38	10	6	13	4	8	41	79
浦和区	18	18	12	8	10	66	15	15	8	17	12	67	133
南区	17	16	12	18	14	77	15	13	18	21	14	81	158
緑区	5	6	8	12	10	41	11	13	7	9	15	55	96
岩槻区	6	5	9	7	6	33	9	8	5	6	9	37	70
合計	100	100	100	100	100	500	100	100	100	100	100	500	1000

1-5 調査方法

インターネット調査（調査会社の登録モニターによるWEB調査）

1-6 実施時期

令和4年11月4日（金）～11月6日（日）

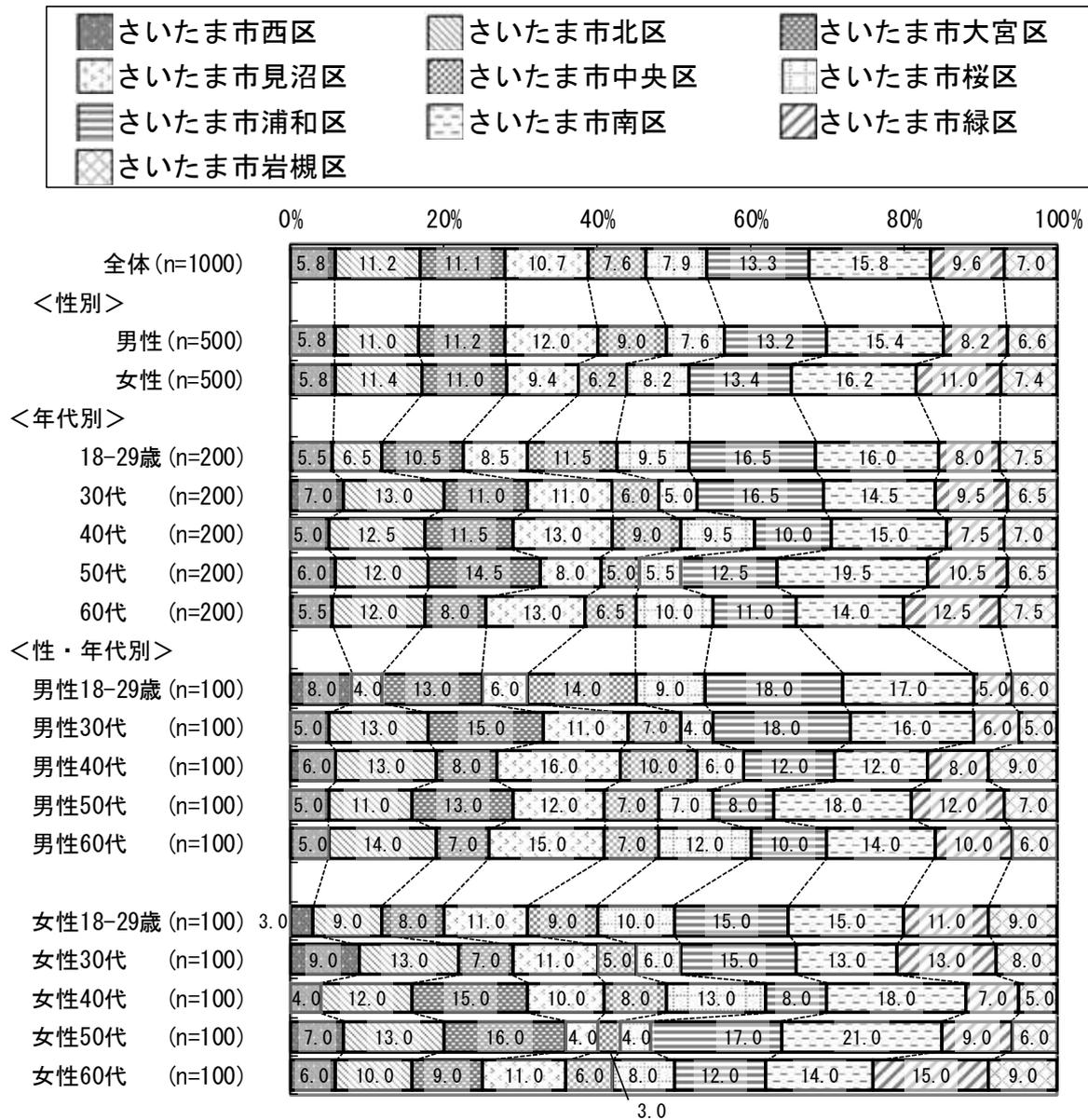
1-7 調査実施機関

株式会社サーベイリサーチセンター

2 調査結果

SC1. 居住地

あなたのお住まいをお答えください。

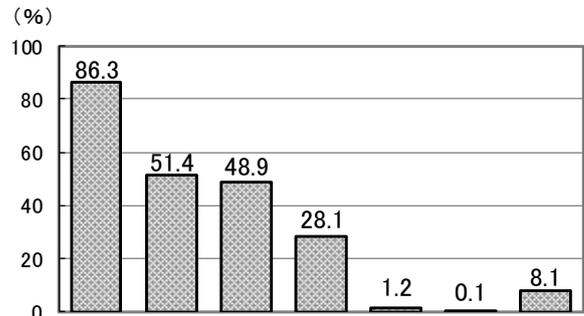


【SNSに関するアンケート】

Q1. 利用しているSNS（複数回答）

あなたは、現在SNSを利用していますか。

以下の中から、利用しているものをすべて選んでください。



		LINE	Twitter	Instagram	Facebook	その他	わからない	利用していない
全体(n=1000)		86.3	51.4	48.9	28.1	1.2	0.1	8.1
性別	男性(n=500)	84.8	55.0	39.4	31.0	1.6	0.0	9.8
	女性(n=500)	87.8	47.8	58.4	25.2	0.8	0.2	6.4
年代別	18-29歳(n=200)	95.5	80.0	77.0	23.5	1.0	0.0	1.0
	30代 (n=200)	91.5	58.5	58.5	35.5	0.5	0.0	5.0
	40代 (n=200)	84.5	52.0	46.0	27.5	1.0	0.0	6.5
	50代 (n=200)	79.5	38.5	38.0	25.5	1.0	0.5	12.5
	60代 (n=200)	80.5	28.0	25.0	28.5	2.5	0.0	15.5
性・年代別	男性18-29歳(n=100)	94.0	80.0	68.0	28.0	0.0	0.0	1.0
	男性30代 (n=100)	91.0	62.0	40.0	30.0	0.0	0.0	9.0
	男性40代 (n=100)	83.0	53.0	34.0	27.0	1.0	0.0	8.0
	男性50代 (n=100)	74.0	44.0	29.0	29.0	2.0	0.0	17.0
	男性60代 (n=100)	82.0	36.0	26.0	41.0	5.0	0.0	14.0
	女性18-29歳(n=100)	97.0	80.0	86.0	19.0	2.0	0.0	1.0
	女性30代 (n=100)	92.0	55.0	77.0	41.0	1.0	0.0	1.0
	女性40代 (n=100)	86.0	51.0	58.0	28.0	1.0	0.0	5.0
	女性50代 (n=100)	85.0	33.0	47.0	22.0	0.0	1.0	8.0
女性60代 (n=100)	79.0	20.0	24.0	16.0	0.0	0.0	17.0	

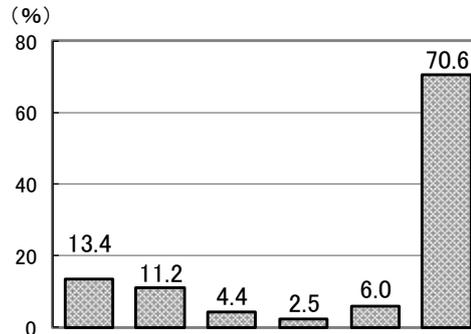
【全体結果】「LINE」が86%で最も高く、「Twitter」(51%)、「Instagram」(49%)が続いた。

◎性別で見ると、「Instagram」は、女性(58%)が男性(39%)よりも19ポイント高かった。

◎年代別で見ると、「Twitter」、「Instagram」は、年代が下がるにつれ高くなった。

Q2. さいたま市公式アカウントの利用（複数回答）

さいたま市では、SNSの公式アカウントを通して情報発信を行っています。
あなたは、さいたま市の公式アカウントを利用したことがありますか。
以下の中から、利用したことがあるものをすべて選んでください。



		LINE	Twitter	Instagram	Facebook	知らない／覚えていない	利用したことはない
全体(n=1000)		13.4	11.2	4.4	2.5	6.0	70.6
性別	男性(n=500)	14.0	11.4	4.6	3.2	6.0	71.4
	女性(n=500)	12.8	11.0	4.2	1.8	6.0	69.8
年代別	18-29歳(n=200)	10.0	15.0	8.5	3.5	6.0	69.5
	30代 (n=200)	12.5	12.5	4.5	2.5	7.5	68.0
	40代 (n=200)	15.0	12.0	3.0	1.5	6.5	68.5
	50代 (n=200)	13.5	11.0	4.0	2.0	5.0	72.5
	60代 (n=200)	16.0	5.5	2.0	3.0	5.0	74.5
性・年代別	男性18-29歳(n=100)	13.0	21.0	9.0	5.0	6.0	64.0
	男性30代 (n=100)	12.0	10.0	5.0	2.0	6.0	71.0
	男性40代 (n=100)	17.0	9.0	3.0	2.0	9.0	69.0
	男性50代 (n=100)	12.0	12.0	4.0	4.0	5.0	77.0
	男性60代 (n=100)	16.0	5.0	2.0	3.0	4.0	76.0
	女性18-29歳(n=100)	7.0	9.0	8.0	2.0	6.0	75.0
	女性30代 (n=100)	13.0	15.0	4.0	3.0	9.0	65.0
	女性40代 (n=100)	13.0	15.0	3.0	1.0	4.0	68.0
女性50代 (n=100)	15.0	10.0	4.0	0.0	5.0	68.0	
女性60代 (n=100)	16.0	6.0	2.0	3.0	6.0	73.0	

【全体結果】「LINE」が13%で最も高く、「Twitter」(11%)、「Instagram」(4%)が続いた。

一方、「利用したことはない」は、71%であった。

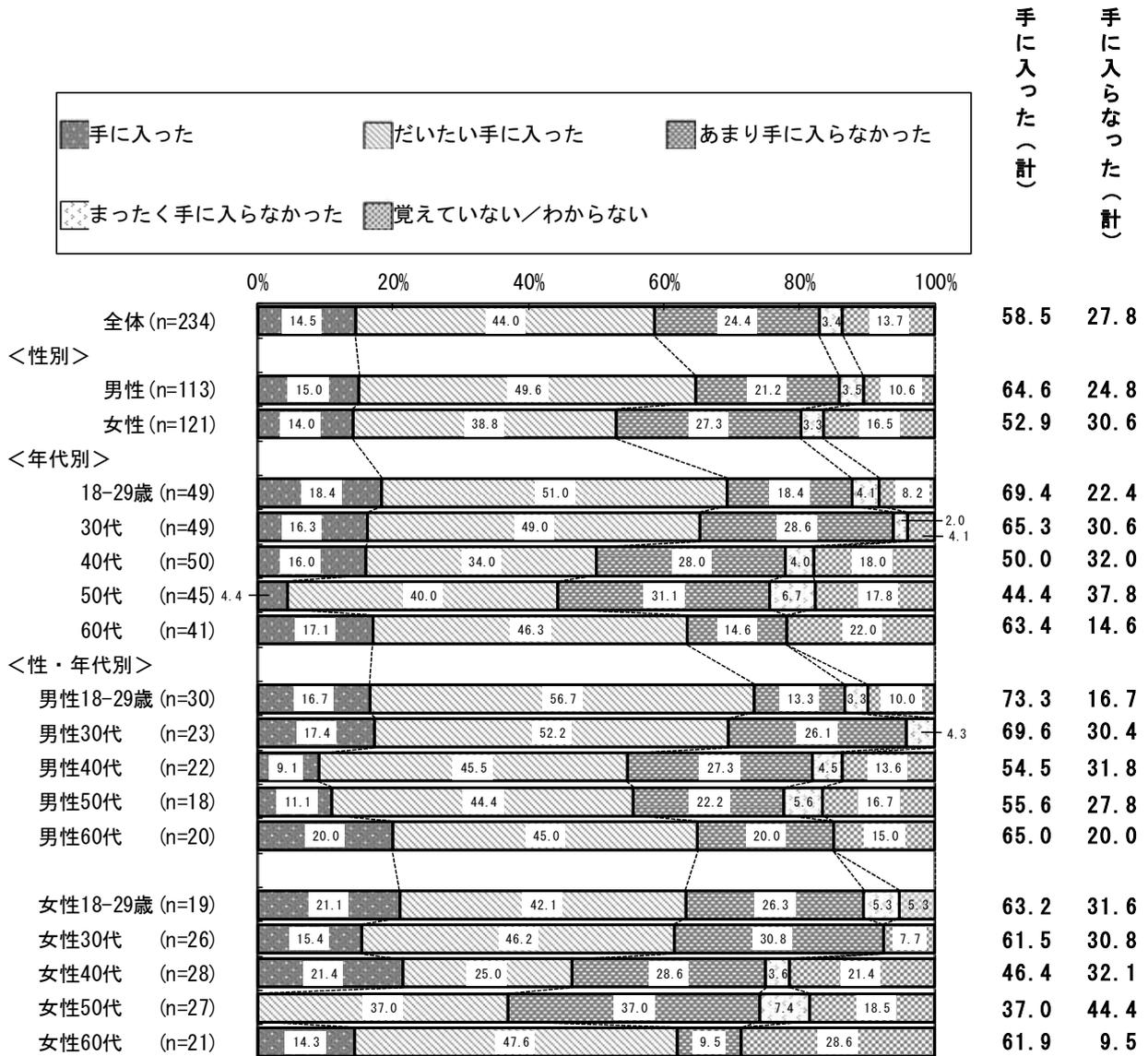
◎年代別で見ると、「Twitter」は、年代が下がるにつれ高くなり、18-29歳で15%となった。

◎性・年代別で見ると、「LINE」は、女性では年代が上がるにつれ高くなる傾向があり、60代で16%となった。

(Q2で、「Twitter」、「Instagram」、「Facebook」、「LINE」を回答した人が対象)

Q3. さいたま市公式アカウントを利用して、求めている情報が手に入ったか

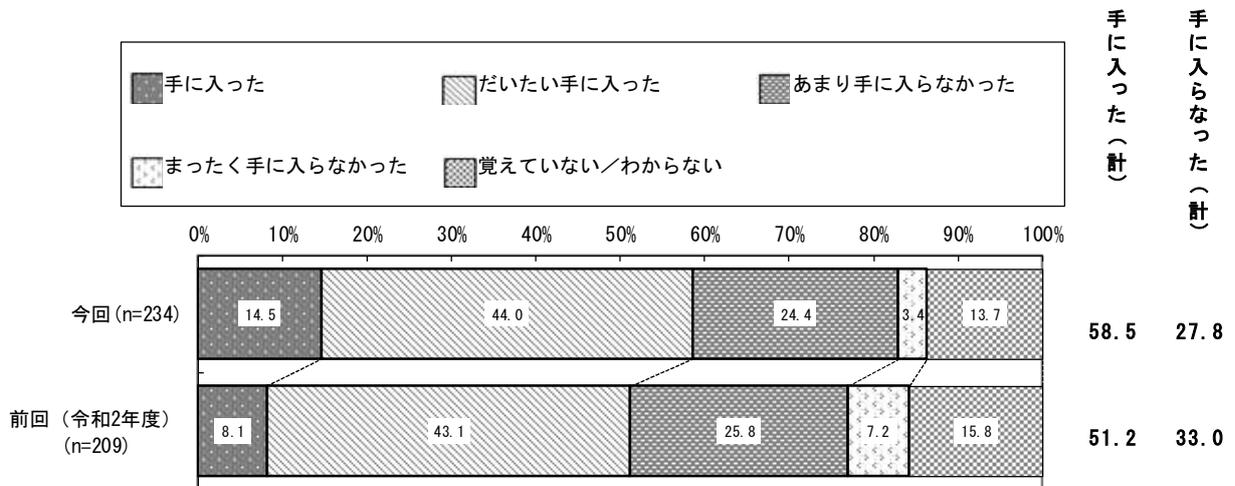
SNSのさいたま市公式アカウントを利用して、あなたが求めている情報は手に入りましたか。以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。



【全体結果】さいたま市の公式アカウントを利用したことがある人 (234 人) に、求めている情報が手に入ったか聞いたところ、「手に入った」(15%)と「だいたい手に入った」(44%)を合わせた『手に入った (計)』は、59%であった。

◎性別で見ると、『手に入った (計)』は、男性 (65%) が女性 (53%) よりも 12 ポイント高かった。

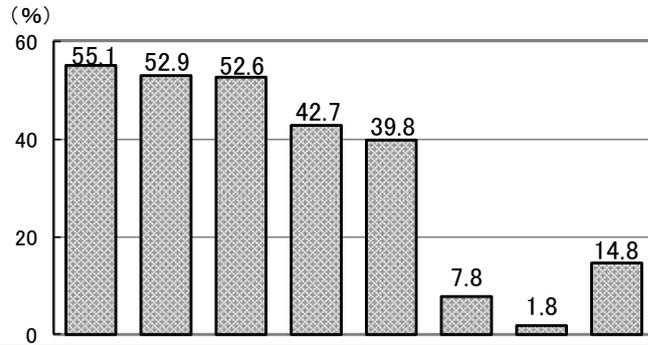
Q3. さいたま市公式アカウントを利用して、求めている情報が手に入ったか（経年比較）



【比較結果】過去の同様の調査結果と比較すると、『手に入った（計）』（59%）は、前回の調査結果（51%）よりも8ポイント増加した。

Q4. さいたま市公式アカウントで発信してほしい情報（複数回答）

SNSのさいたま市公式アカウントで発信してほしい情報は何か。
以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



		災害情報	イベント情報	行政サービスの情報	公共施設の情報	地域密着の情報	らう市民参加型の企画	その他	知りたい情報はない
全体(n=1000)		55.1	52.9	52.6	42.7	39.8	7.8	1.8	14.8
性別	男性(n=500)	53.2	48.0	55.6	43.4	36.8	8.2	1.8	17.2
	女性(n=500)	57.0	57.8	49.6	42.0	42.8	7.4	1.8	12.4
年代別	18-29歳(n=200)	42.5	48.5	47.0	36.0	29.5	8.5	2.0	20.0
	30代 (n=200)	55.0	57.0	48.0	44.5	42.0	5.5	2.5	16.0
	40代 (n=200)	57.5	58.0	50.0	40.5	40.0	8.5	2.5	13.0
	50代 (n=200)	59.0	53.0	56.5	46.0	44.5	8.5	0.0	14.0
	60代 (n=200)	61.5	48.0	61.5	46.5	43.0	8.0	2.0	11.0
性・年代別	男性18-29歳(n=100)	46.0	42.0	56.0	38.0	26.0	13.0	2.0	19.0
	男性30代 (n=100)	42.0	49.0	44.0	41.0	34.0	4.0	2.0	24.0
	男性40代 (n=100)	50.0	54.0	49.0	44.0	33.0	7.0	3.0	17.0
	男性50代 (n=100)	61.0	50.0	59.0	47.0	40.0	9.0	0.0	14.0
	男性60代 (n=100)	67.0	45.0	70.0	47.0	51.0	8.0	2.0	12.0
	女性18-29歳(n=100)	39.0	55.0	38.0	34.0	33.0	4.0	2.0	21.0
	女性30代 (n=100)	68.0	65.0	52.0	48.0	50.0	7.0	3.0	8.0
	女性40代 (n=100)	65.0	62.0	51.0	37.0	47.0	10.0	2.0	9.0
	女性50代 (n=100)	57.0	56.0	54.0	45.0	49.0	8.0	0.0	14.0
女性60代 (n=100)	56.0	51.0	53.0	46.0	35.0	8.0	2.0	10.0	

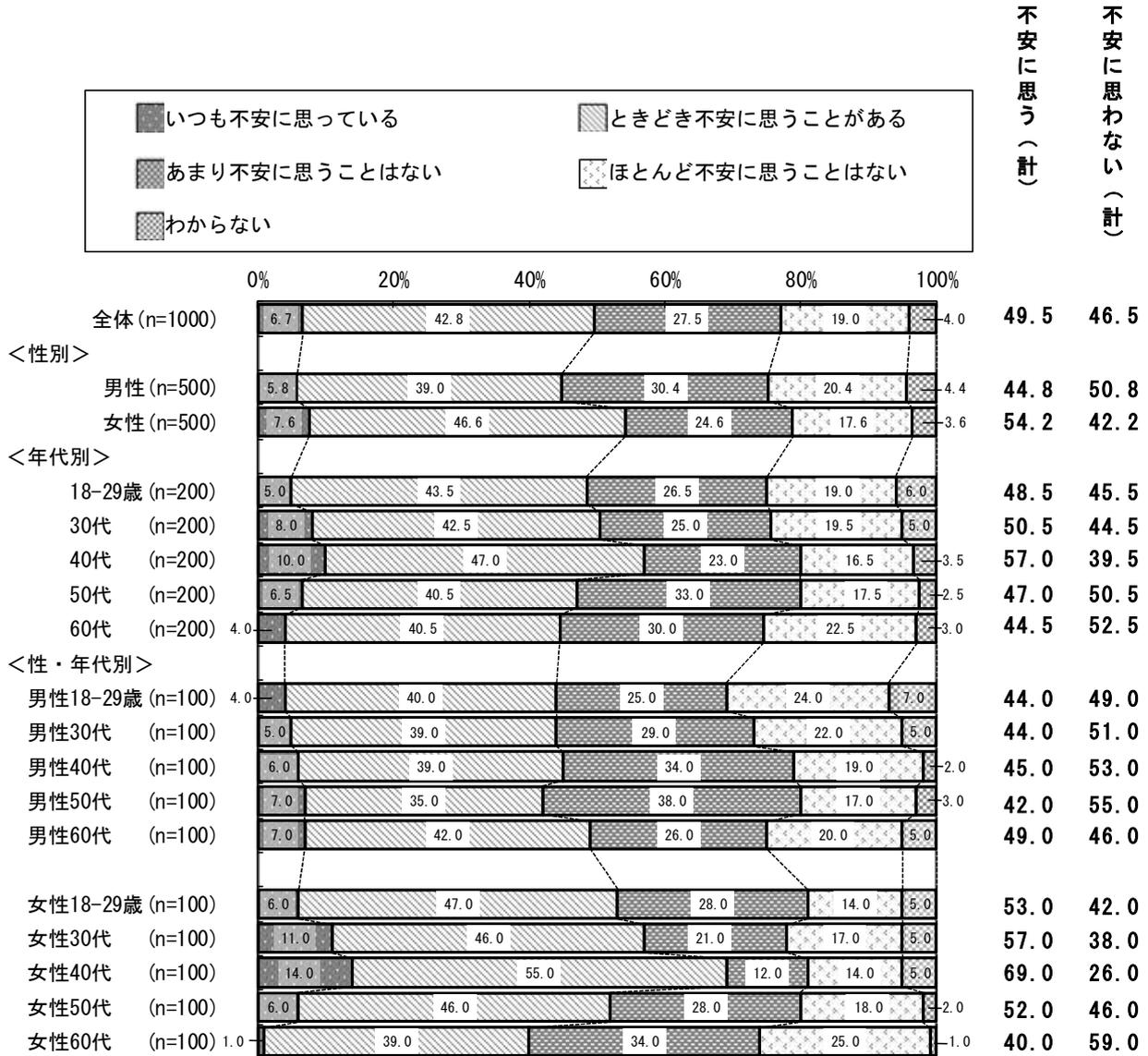
【全体結果】「災害情報」が55%で最も高く、「イベント情報」、「行政サービスの情報」（ともに53%）が続いた。

- ◎年代別で見ると、「災害情報」、「行政サービスの情報」は、年代が上がるにつれ高くなった。
- ◎性・年代別で見ると、「公共施設の情報」は、男性では年代が上がるにつれ高くなる傾向があり、50～60代で47%となった。

【防犯カメラに関するアンケート】

Q5. 自分や家族が犯罪に巻き込まれないか不安に思うことがあるか

あなたは、ふだん街なかを歩いていて、ご自身やご家族が犯罪に巻き込まれないか不安に思うことがありますか。以下の中から、1つだけ選んでください。

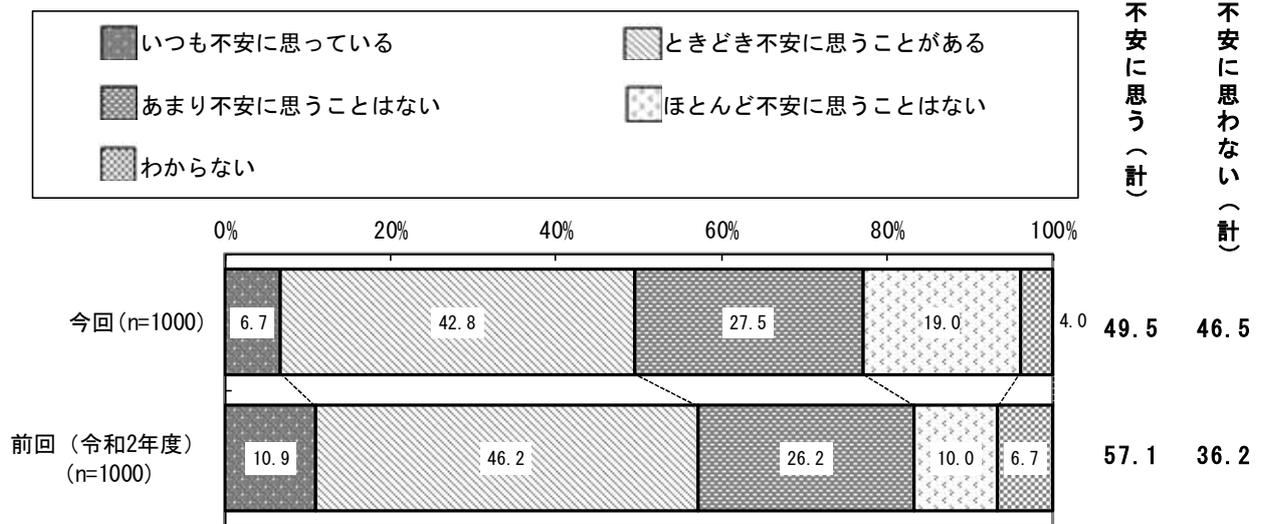


【全体結果】「いつも不安に思っている」(7%)と「ときどき不安に思うことがある」(43%)を合わせた『不安に思う (計)』は、50%であった。

◎性別で見ると、『不安に思う (計)』は、女性 (54%) が男性 (45%) よりも9ポイント高かった。

◎性・年代別で見ると、『不安に思う (計)』は、女性40代が69%で最も高かった。

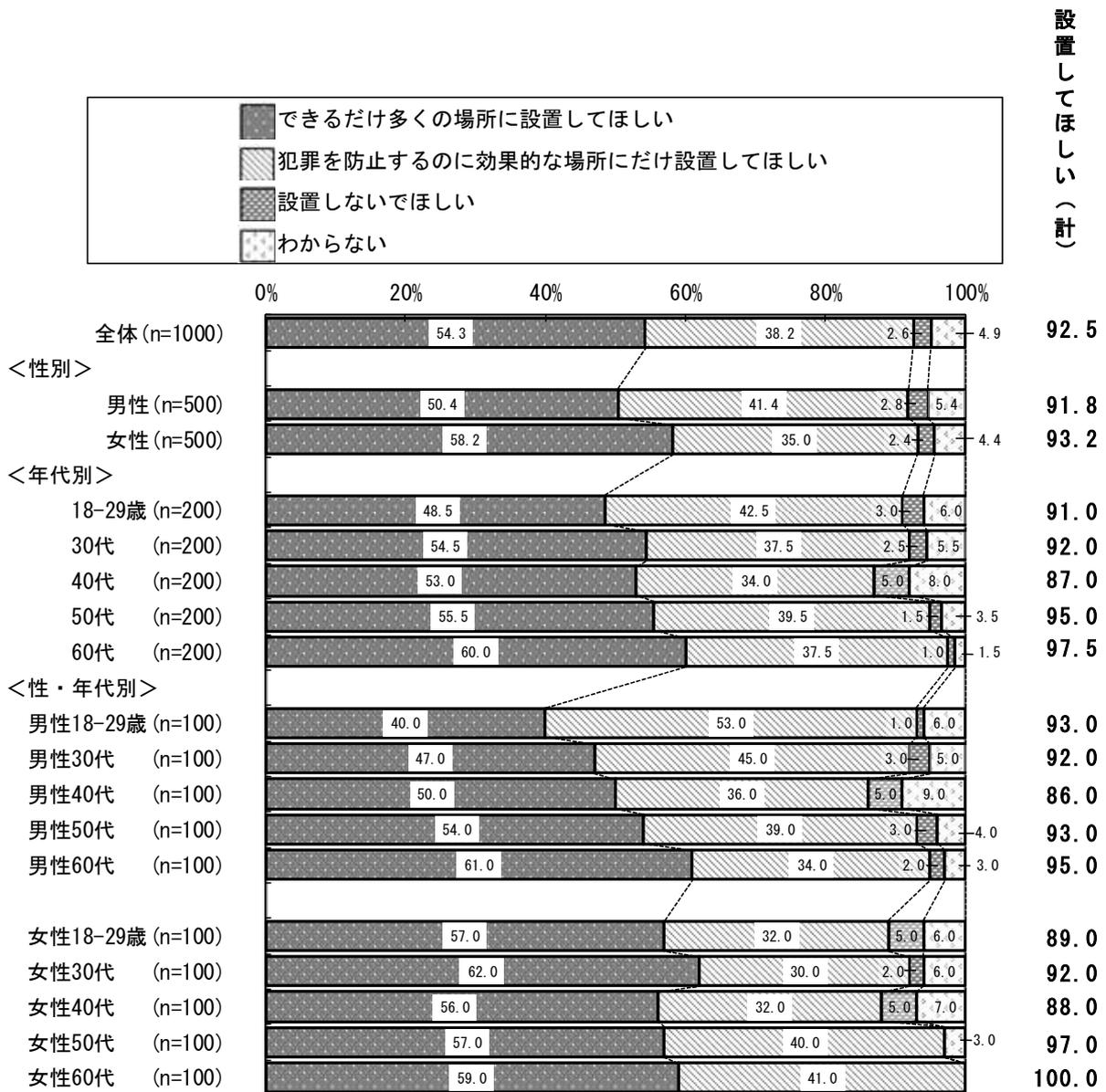
Q5. 自分や家族が犯罪に巻き込まれないか不安に思うことがあるか（経年比較）



【比較結果】 過去の同様の調査結果と比較すると、『不安に思う (計)』(50%) は、前回の調査結果 (57%) よりも7ポイント減少した。

Q6. 公共の場所に防犯カメラが設置されることについてどう思うか

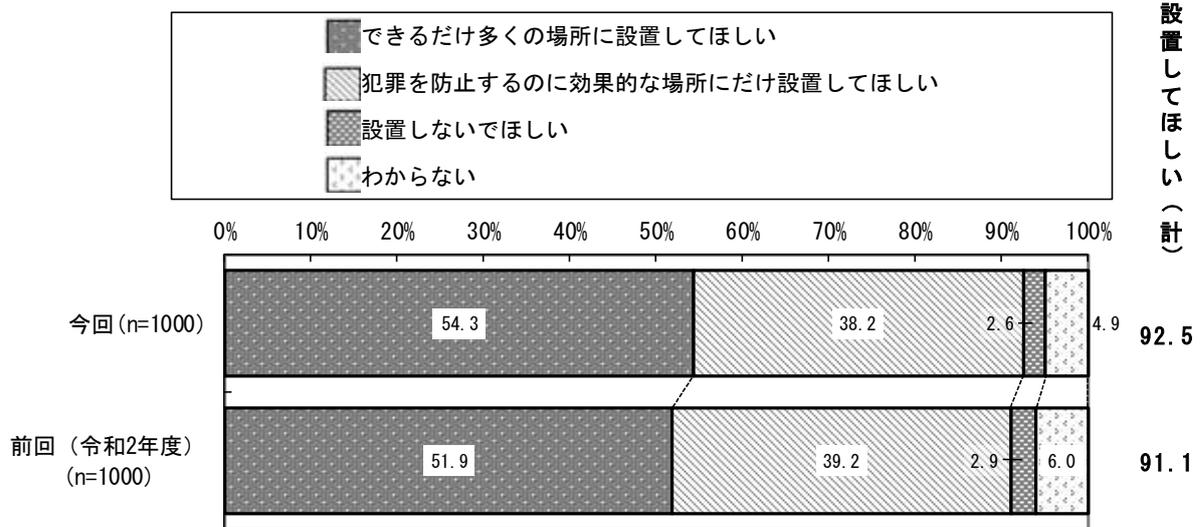
あなたは、市内の公共の場所（道路や駅前など）に防犯カメラが設置されることについて、どのように思いますか。以下の中から、1つだけ選んでください。



【全体結果】「できるだけ多くの場所に設置してほしい」(54%)と「犯罪を防止するのに効果的な場所にだけ設置してほしい」(38%)を合わせた『設置してほしい(計)』は、93%であった。

◎性・年代別で見ると、『設置してほしい(計)』は、女性60代では100%であった。

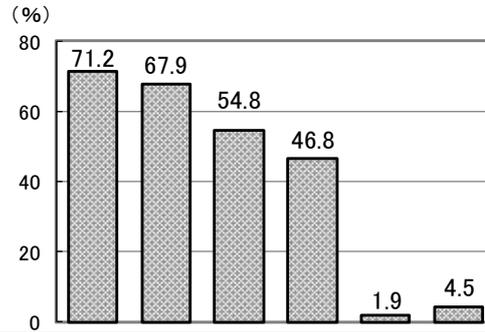
Q 6. 公共の場所に防犯カメラが設置されることについてどう思うか（経年比較）



【比較結果】 過去の同様の調査結果と、ほぼ同じであった。

Q7. 防犯カメラにはどのような効果があると思うか（複数回答）

あなたは防犯カメラにはどのような効果があると思いますか。
以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



		犯罪解決に役立つ	犯罪を未然に防ぐ	地域の防犯意識が高まる	安心感が得られる	効果があるとは思わない	わからない
全体(n=1000)		71.2	67.9	54.8	46.8	1.9	4.5
性別	男性(n=500)	69.0	67.4	50.2	45.0	2.2	5.0
	女性(n=500)	73.4	68.4	59.4	48.6	1.6	4.0
年代別	18-29歳(n=200)	58.0	62.0	49.0	51.5	2.5	5.5
	30代 (n=200)	71.5	65.5	57.5	47.0	1.0	7.0
	40代 (n=200)	73.0	68.5	56.5	43.0	3.5	4.0
	50代 (n=200)	72.0	71.5	55.5	43.0	2.5	3.5
	60代 (n=200)	81.5	72.0	55.5	49.5	0.0	2.5
性・年代別	男性18-29歳(n=100)	59.0	60.0	45.0	50.0	0.0	5.0
	男性30代 (n=100)	71.0	61.0	49.0	46.0	2.0	8.0
	男性40代 (n=100)	66.0	65.0	46.0	34.0	5.0	4.0
	男性50代 (n=100)	68.0	73.0	53.0	43.0	4.0	3.0
	男性60代 (n=100)	81.0	78.0	58.0	52.0	0.0	5.0
	女性18-29歳(n=100)	57.0	64.0	53.0	53.0	5.0	6.0
	女性30代 (n=100)	72.0	70.0	66.0	48.0	0.0	6.0
	女性40代 (n=100)	80.0	72.0	67.0	52.0	2.0	4.0
	女性50代 (n=100)	76.0	70.0	58.0	43.0	1.0	4.0
女性60代 (n=100)	82.0	66.0	53.0	47.0	0.0	0.0	

【全体結果】「犯罪解決に役立つ」が71%で最も高く、「犯罪を未然に防ぐ」(68%)、「地域の防犯意識が高まる」(55%)が続いた。

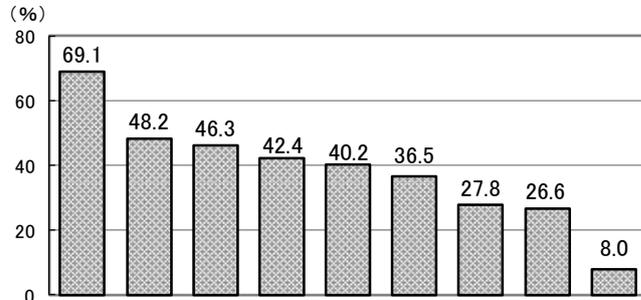
◎性別で見ると、「地域の防犯意識が高まる」は、女性(59%)が男性(50%)よりも9ポイント高かった。

◎年代別で見ると、「犯罪解決に役立つ」、「犯罪を未然に防ぐ」は、年代が上がるにつれ高くなる傾向があった。

Q 8. 新たに公共の場所に防犯カメラが設置される場合、設置者に対してどのようなことに注意してほしいか（複数回答）

現在、さいたま市では「さいたま市街頭防犯カメラシステム運用基準」に則り、大宮駅西口及び浦和駅東口に設置した街頭防犯カメラを運用しております。

あなたは、新たに公共の場所に防犯カメラが設置される場合に、設置者には、主にどういったことに注意してほしいと思いますか。以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



		画像データの厳重な管理（機器の盗難、画像の流出対策など）	有事、緊急時の画像の外部提供方法の厳守	「防犯カメラ設置中」などの看板の明示	人の居住空間が映りこまないよう撮影方向	設置・運用基準の明確化	管理・運用責任者の指定	問合せ先の明示	苦情等への的確な対応	わからない
全体(n=1000)		69.1	48.2	46.3	42.4	40.2	36.5	27.8	26.6	8.0
性別	男性(n=500)	68.2	44.2	44.0	40.8	42.6	34.2	24.6	24.0	8.4
	女性(n=500)	70.0	52.2	48.6	44.0	37.8	38.8	31.0	29.2	7.6
年代別	18-29歳(n=200)	59.0	34.0	44.5	46.5	23.5	27.5	20.0	15.5	9.5
	30代 (n=200)	66.5	50.0	46.0	48.0	39.0	32.5	31.5	29.0	9.5
	40代 (n=200)	67.5	48.0	49.5	43.5	38.5	38.5	32.0	31.5	11.0
	50代 (n=200)	77.0	52.0	40.5	41.0	48.0	37.0	29.0	28.5	7.5
	60代 (n=200)	75.5	57.0	51.0	33.0	52.0	47.0	26.5	28.5	2.5
性・年代別	男性18-29歳(n=100)	60.0	31.0	40.0	50.0	25.0	27.0	16.0	12.0	9.0
	男性30代 (n=100)	64.0	43.0	42.0	50.0	44.0	32.0	29.0	26.0	10.0
	男性40代 (n=100)	61.0	39.0	48.0	37.0	33.0	30.0	24.0	25.0	13.0
	男性50代 (n=100)	76.0	47.0	38.0	33.0	53.0	31.0	26.0	25.0	7.0
	男性60代 (n=100)	80.0	61.0	52.0	34.0	58.0	51.0	28.0	32.0	3.0
	女性18-29歳(n=100)	58.0	37.0	49.0	43.0	22.0	28.0	24.0	19.0	10.0
	女性30代 (n=100)	69.0	57.0	50.0	46.0	34.0	33.0	34.0	32.0	9.0
	女性40代 (n=100)	74.0	57.0	51.0	50.0	44.0	47.0	40.0	38.0	9.0
女性50代 (n=100)	78.0	57.0	43.0	49.0	43.0	43.0	32.0	32.0	8.0	
女性60代 (n=100)	71.0	53.0	50.0	32.0	46.0	43.0	25.0	25.0	2.0	

【全体結果】「画像データの厳重な管理（機器の盗難、画像の流出対策など）」が 69%で最も高く、「有事、緊急時の画像の外部提供方法の厳守」（48%）、「防犯カメラ設置中」などの看板の明示」（46%）が続いた。

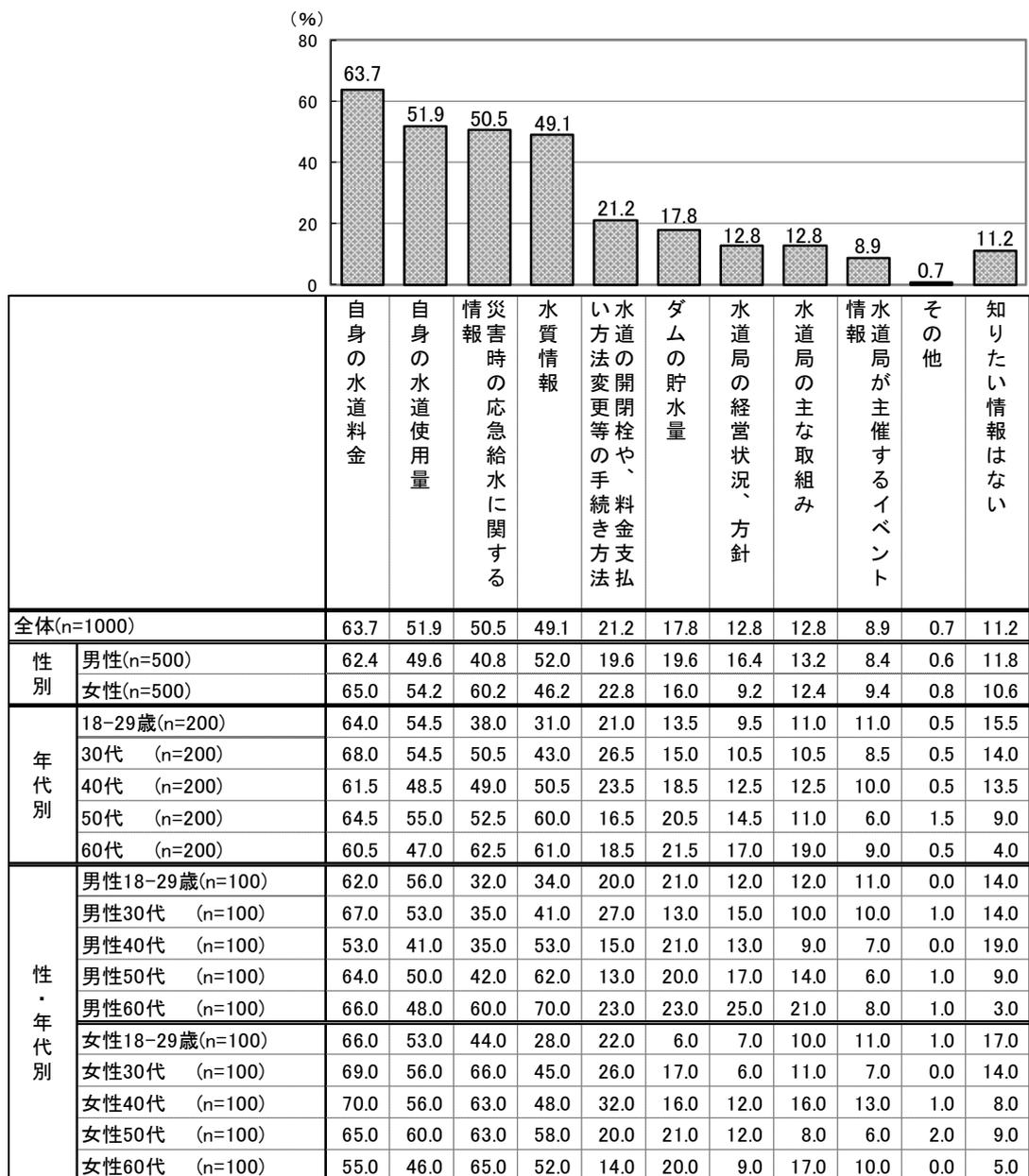
◎性別で見ると、「有事、緊急時の画像の外部提供方法の厳守」は、女性（52%）が男性（44%）よりも8ポイント高かった。

【水道事業に関するアンケート】

Q9. 水道事業について、どのような情報が知りたいか（複数回答）

水道事業について、あなたが知りたいのはどのような情報ですか。

以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

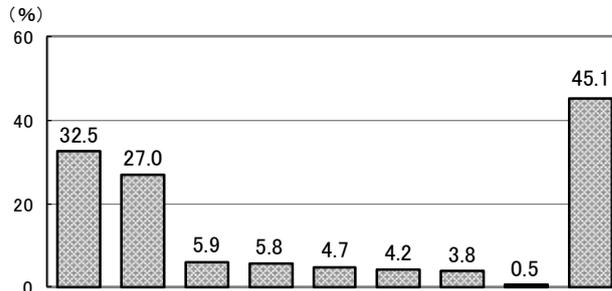


【全体結果】「自身の水道料金」が64%で最も高く、「自身の水道使用量」(52%)、「災害時の応急給水に関する情報」(51%)、「水質情報」(49%)が続いた。

- ◎性別で見ると、「災害時の応急給水に関する情報」は、女性(60%)が男性(41%)よりも19ポイント高かった。
- ◎年代別で見ると、「水質情報」、「ダムの貯水量」、「水道局の経営状況、方針」は、年代が上がるにつれ高くなった。
- ◎性・年代別で見ると、「災害時の応急給水に関する情報」は、男性では年代が上がるにつれ高くなる傾向があり、60代で60%となった。

Q10. 水道事業に関する情報の入手方法（複数回答）

あなたは、さいたま市水道事業に関する情報を、どのような方法で入手していますか。以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



		「市報さいたま」などの市からの広報物	さいたま市ホームページ	水道局への電話やメールでのお問合せ	水道メーター検針員（検針時に尋ねる）	「水道事業年報」などの水道局の刊行物	SNS	報道	その他	収集していない
全体(n=1000)		32.5	27.0	5.9	5.8	4.7	4.2	3.8	0.5	45.1
性別	男性(n=500)	25.6	32.0	7.6	5.8	6.0	3.4	3.0	1.0	46.0
	女性(n=500)	39.4	22.0	4.2	5.8	3.4	5.0	4.6	0.0	44.2
年代別	18-29歳(n=200)	19.0	29.0	6.5	7.0	8.0	10.0	5.0	0.0	50.0
	30代 (n=200)	24.0	31.5	7.0	6.0	5.0	4.5	3.5	1.0	49.0
	40代 (n=200)	33.5	27.0	5.5	4.5	3.5	3.5	6.0	0.0	47.5
	50代 (n=200)	37.5	24.0	4.5	5.5	3.0	1.0	2.5	1.0	43.5
	60代 (n=200)	48.5	23.5	6.0	6.0	4.0	2.0	2.0	0.5	35.5
性・年代別	男性18-29歳(n=100)	20.0	36.0	10.0	8.0	13.0	10.0	6.0	0.0	42.0
	男性30代 (n=100)	20.0	35.0	9.0	7.0	6.0	2.0	2.0	2.0	47.0
	男性40代 (n=100)	20.0	29.0	5.0	3.0	3.0	2.0	3.0	0.0	56.0
	男性50代 (n=100)	25.0	27.0	4.0	7.0	3.0	1.0	2.0	2.0	50.0
	男性60代 (n=100)	43.0	33.0	10.0	4.0	5.0	2.0	2.0	1.0	35.0
	女性18-29歳(n=100)	18.0	22.0	3.0	6.0	3.0	10.0	4.0	0.0	58.0
	女性30代 (n=100)	28.0	28.0	5.0	5.0	4.0	7.0	5.0	0.0	51.0
	女性40代 (n=100)	47.0	25.0	6.0	6.0	4.0	5.0	9.0	0.0	39.0
女性50代 (n=100)	50.0	21.0	5.0	4.0	3.0	1.0	3.0	0.0	37.0	
女性60代 (n=100)	54.0	14.0	2.0	8.0	3.0	2.0	2.0	0.0	36.0	

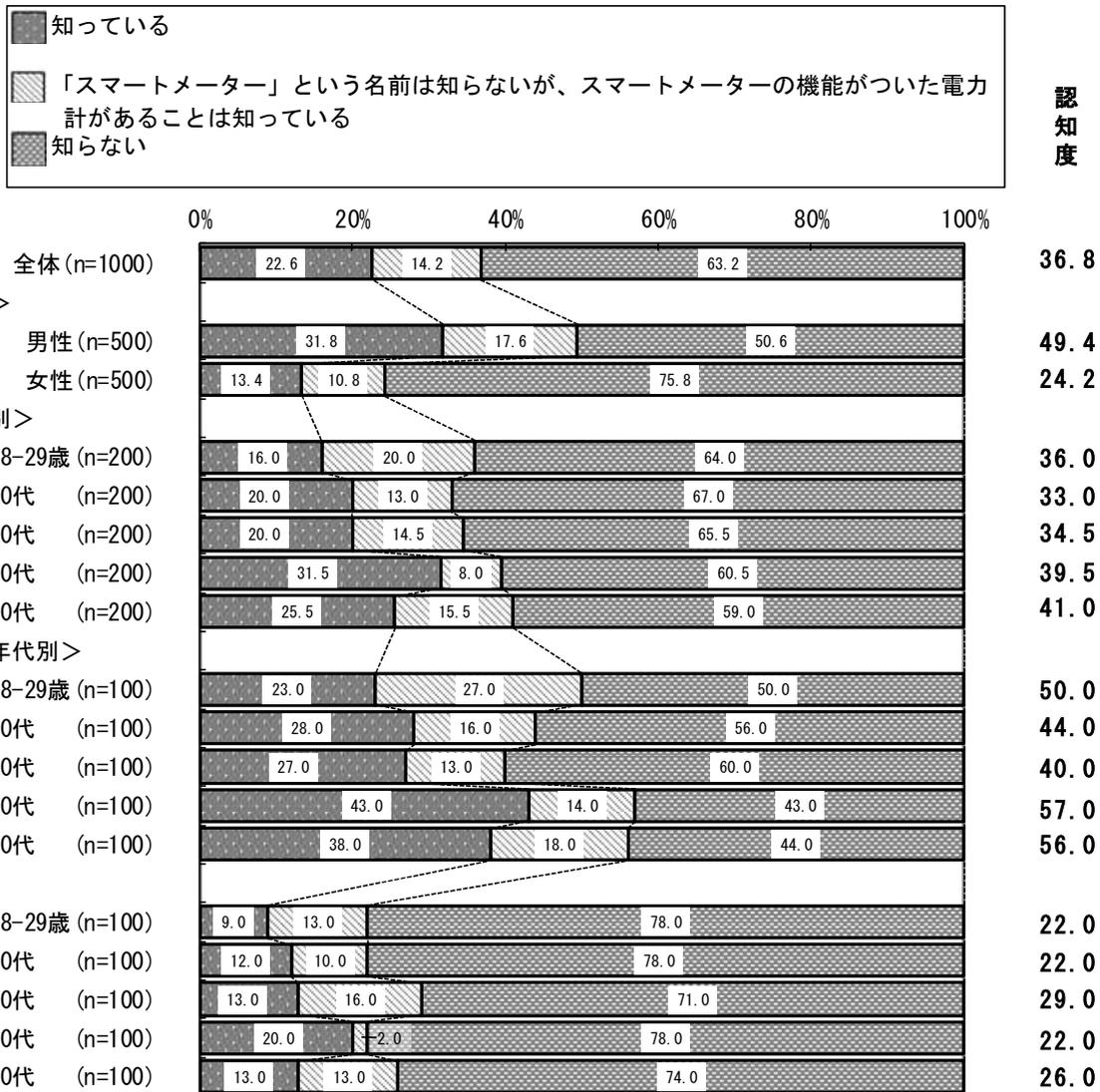
【全体結果】「市報さいたま」、「さいたま市水道だより」などの市からの広報物が33%で最も高く、「さいたま市ホームページ」(27%)が続いた。一方、「収集していない」は、45%であった。

◎性別で見ると、「市報さいたま」、「さいたま市水道だより」などの市からの広報物は、女性(39%)が男性(26%)よりも13ポイント高かった。一方、「さいたま市ホームページ」は、男性(32%)が女性(22%)よりも10ポイント高かった。

◎年代別で見ると、「市報さいたま」、「さいたま市水道だより」などの市からの広報物は、年代が上がるにつれ高くなり、60代で49%となった。

Q11. スマートメーターの認知度

あなたは、電力事業で導入されている、検針業務の自動化や電力使用量の見える化をするスマートメーターを知っていますか。以下の中から、1つだけ選んでください。

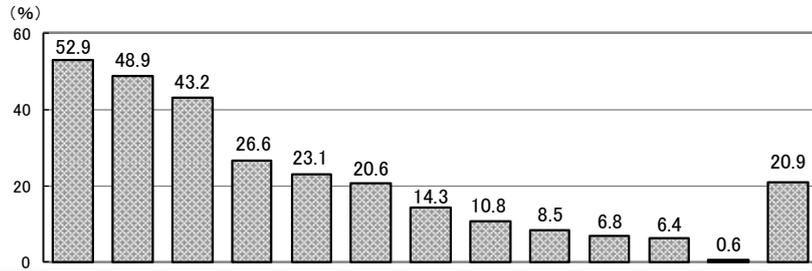


【全体結果】「知っている」(23%)と「「スマートメーター」という名前は知らないが、スマートメーターの機能がついた電力計があることは知っている」(14%)を合わせた『認知度』は、37%であった。

◎性別で見ると、『認知度』は、男性(49%)が女性(24%)よりも25ポイント高かった。

Q12. 水道事業にスマートメーターを導入できた場合、何を期待するか（複数回答）

今後、水道事業においてもスマートメーターを導入できた場合、あなたが期待することは何ですか。以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



		と水道使用量や水道料金に関して、現時点と過去との比較ができる	自身が気になったときに水道使用量や水道料金の確認ができる	漏水や蛇口の閉め忘れ等の通知が届く	水道使用量が一定量を超えたときに通知が届く	電力やガスと同様に、水道料金の請求周期が2か月から1か月に変更される	検針時に検針員が自身の敷地内に入らなくなる	詳細な水道使用量情報をもとにした時間帯別料金導入される	水道使用状況をもとにした、離れた暮らす家族の見守り等の福祉的なサービスが実施される	新しい市民サービスが実施される	水道使用量のデータと他データとの連携による社会全体の水道使用実態がオープンデータとして活用される	水道使用量をもとにした、クイズ等の市民参加型のキャンペーンが開催される	その他	わからない
全体(n=1000)		52.9	48.9	43.2	26.6	23.1	20.6	14.3	10.8	8.5	6.8	6.4	0.6	20.9
性別	男性(n=500)	54.4	45.8	38.2	23.0	23.0	19.8	17.0	11.2	9.2	8.0	7.8	1.0	19.8
	女性(n=500)	51.4	52.0	48.2	30.2	23.2	21.4	11.6	10.4	7.8	5.6	5.0	0.2	22.0
年代別	18-29歳(n=200)	51.0	45.5	35.5	17.5	20.5	22.5	16.0	10.5	7.5	5.5	8.0	0.0	22.0
	30代 (n=200)	58.0	47.5	43.0	27.0	23.0	25.5	13.5	9.5	9.0	4.0	7.5	0.5	22.0
	40代 (n=200)	50.0	48.0	43.5	28.5	24.0	20.5	14.0	13.0	8.0	11.5	6.5	0.5	25.5
	50代 (n=200)	51.0	53.5	46.5	29.5	22.5	17.0	15.5	7.5	7.5	4.5	5.5	1.5	18.5
	60代 (n=200)	54.5	50.0	47.5	30.5	25.5	17.5	12.5	13.5	10.5	8.5	4.5	0.5	16.5
性・年代別	男性18-29歳(n=100)	49.0	39.0	35.0	13.0	19.0	22.0	20.0	15.0	7.0	6.0	12.0	0.0	19.0
	男性30代 (n=100)	62.0	47.0	41.0	25.0	24.0	23.0	17.0	6.0	10.0	4.0	9.0	1.0	16.0
	男性40代 (n=100)	48.0	44.0	35.0	24.0	23.0	18.0	14.0	7.0	5.0	11.0	6.0	0.0	29.0
	男性50代 (n=100)	50.0	47.0	37.0	25.0	23.0	14.0	16.0	8.0	10.0	8.0	7.0	3.0	19.0
	男性60代 (n=100)	63.0	52.0	43.0	28.0	26.0	22.0	18.0	20.0	14.0	11.0	5.0	1.0	16.0
	女性18-29歳(n=100)	53.0	52.0	36.0	22.0	22.0	23.0	12.0	6.0	8.0	5.0	4.0	0.0	25.0
	女性30代 (n=100)	54.0	48.0	45.0	29.0	22.0	28.0	10.0	13.0	8.0	4.0	6.0	0.0	28.0
	女性40代 (n=100)	52.0	52.0	52.0	33.0	25.0	23.0	14.0	19.0	11.0	12.0	7.0	1.0	22.0
	女性50代 (n=100)	52.0	60.0	56.0	34.0	22.0	20.0	15.0	7.0	5.0	1.0	4.0	0.0	18.0
	女性60代 (n=100)	46.0	48.0	52.0	33.0	25.0	13.0	7.0	7.0	7.0	6.0	4.0	0.0	17.0

【全体結果】「水道使用量や水道料金に関して、現時点と過去との比較ができる」が 53%で最も高く、「自身が気になったときに水道使用量や水道料金の確認ができる」(49%)、「漏水や蛇口の閉め忘れ等の通知が届く」(43%)が続いた。

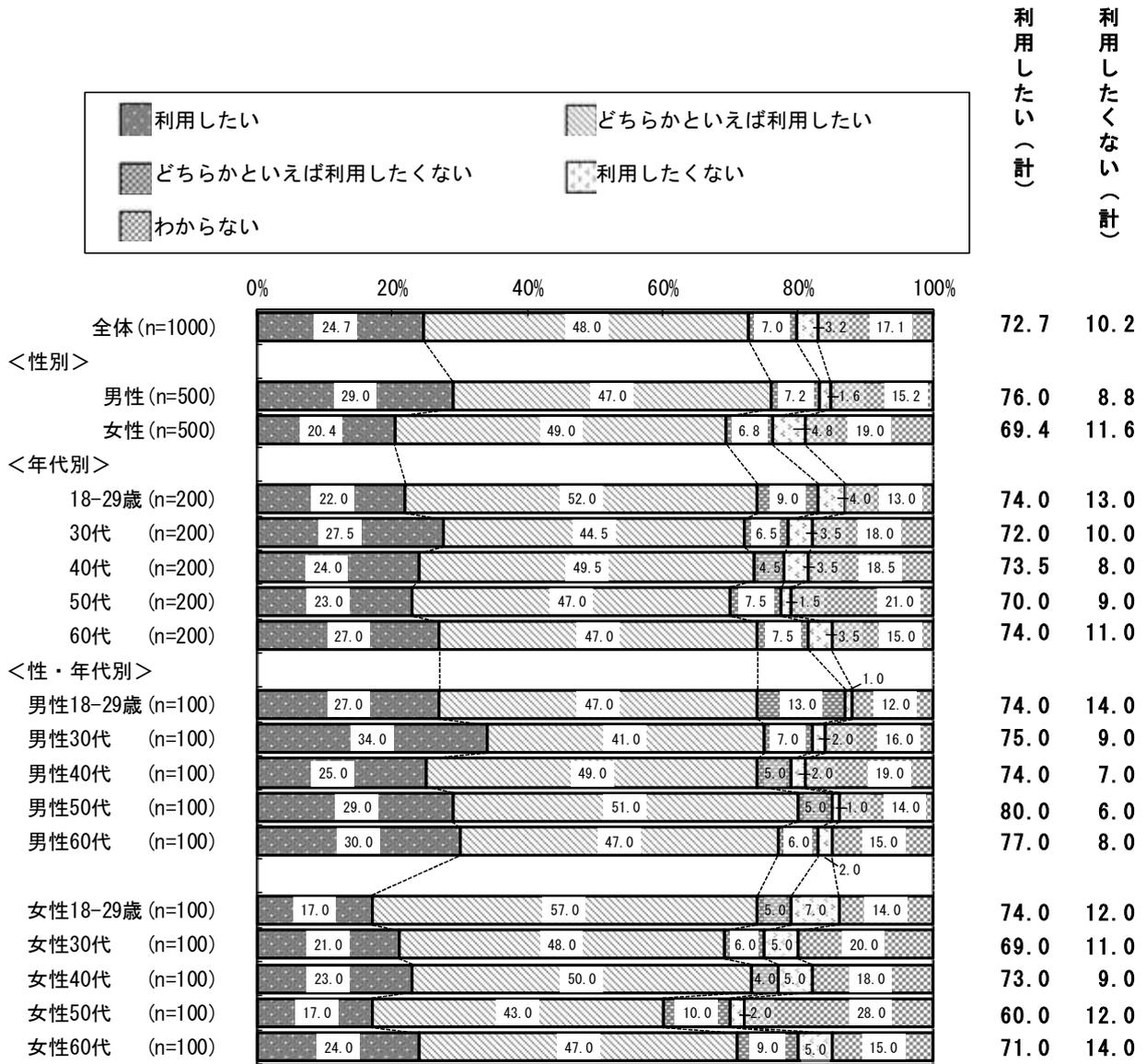
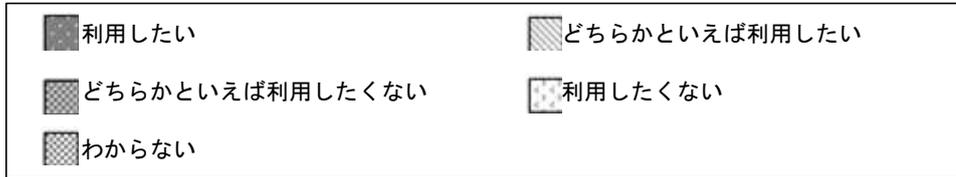
◎性別で見ると、「漏水や蛇口の閉め忘れ等の通知が届く」は、女性(48%)が男性(38%)よりも10ポイント高かった。

◎年代別で見ると、「漏水や蛇口の閉め忘れ等の通知が届く」、「水道使用量が一定量を超えたときに通知が届く」は、年代が上がるにつれ高くなった。

【「公開型緑地」に関するアンケート】

Q13. 公開型緑地を利用したいか

あなたは、さいたま市内の公開型緑地を利用したいと思いますか。
以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。

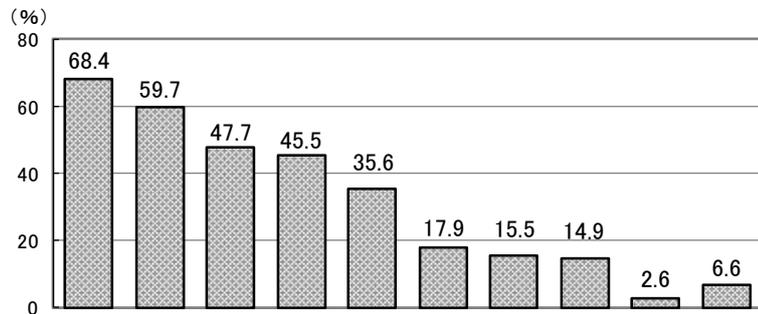


【全体結果】「利用したい」(25%)と「どちらかといえば利用したい」(48%)を合わせた『利用したい (計)』は、73%であった。

◎性別で見ると、『利用したい (計)』は、男性 (76%) が女性 (69%) よりも7ポイント高かった。

Q14. どのような公開型緑地を利用したいか（複数回答）

あなたは、どのような公開型緑地であれば利用してみたいと思いますか。
以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



		歩しやすい散策路がある	ベンチなどがあって休息できる	アクセスがよい	日の光が差し込み見通しがよい	植物や生物が観察できる	保全活動などの取組が行われている	誰でも参加可能なイベントが行われている	ほとんど手を入れず自然のままの緑地である	その他	どのような公開型緑地であってほしいか
全体(n=1000)		68.4	59.7	47.7	45.5	35.6	17.9	15.5	14.9	2.6	6.6
性別	男性(n=500)	65.6	56.8	45.6	42.2	35.0	17.8	14.2	17.8	1.6	6.8
	女性(n=500)	71.2	62.6	49.8	48.8	36.2	18.0	16.8	12.0	3.6	6.4
年代別	18-29歳(n=200)	63.0	60.0	40.0	47.0	32.0	13.0	13.5	19.0	2.5	8.5
	30代 (n=200)	65.5	62.5	48.5	46.0	34.0	13.5	22.0	10.5	2.0	7.0
	40代 (n=200)	67.0	61.5	45.5	47.5	33.5	17.5	18.0	14.0	2.5	9.0
	50代 (n=200)	71.5	52.5	48.5	42.5	35.0	21.5	9.5	14.0	4.5	4.5
	60代 (n=200)	75.0	62.0	56.0	44.5	43.5	24.0	14.5	17.0	1.5	4.0
性・年代別	男性18-29歳(n=100)	63.0	53.0	35.0	46.0	32.0	15.0	15.0	26.0	1.0	8.0
	男性30代 (n=100)	62.0	63.0	51.0	44.0	36.0	11.0	20.0	13.0	2.0	7.0
	男性40代 (n=100)	63.0	58.0	41.0	41.0	26.0	12.0	14.0	15.0	0.0	11.0
	男性50代 (n=100)	68.0	52.0	44.0	35.0	31.0	20.0	10.0	14.0	4.0	5.0
	男性60代 (n=100)	72.0	58.0	57.0	45.0	50.0	31.0	12.0	21.0	1.0	3.0
	女性18-29歳(n=100)	63.0	67.0	45.0	48.0	32.0	11.0	12.0	12.0	4.0	9.0
	女性30代 (n=100)	69.0	62.0	46.0	48.0	32.0	16.0	24.0	8.0	2.0	7.0
	女性40代 (n=100)	71.0	65.0	50.0	54.0	41.0	23.0	22.0	13.0	5.0	7.0
女性50代 (n=100)	75.0	53.0	53.0	50.0	39.0	23.0	9.0	14.0	5.0	4.0	
女性60代 (n=100)	78.0	66.0	55.0	44.0	37.0	17.0	17.0	13.0	2.0	5.0	

【全体結果】「歩しやすい散策路がある」が68%で最も高く、「ベンチなどがあって休息できる」(60%)、「アクセスがよい」(48%)が続いた。

◎性別で見ると、「歩しやすい散策路がある」、「ベンチなどがあって休息できる」、「日の光が差し込み見通しがよい」は、女性が男性よりも5ポイント以上高かった。

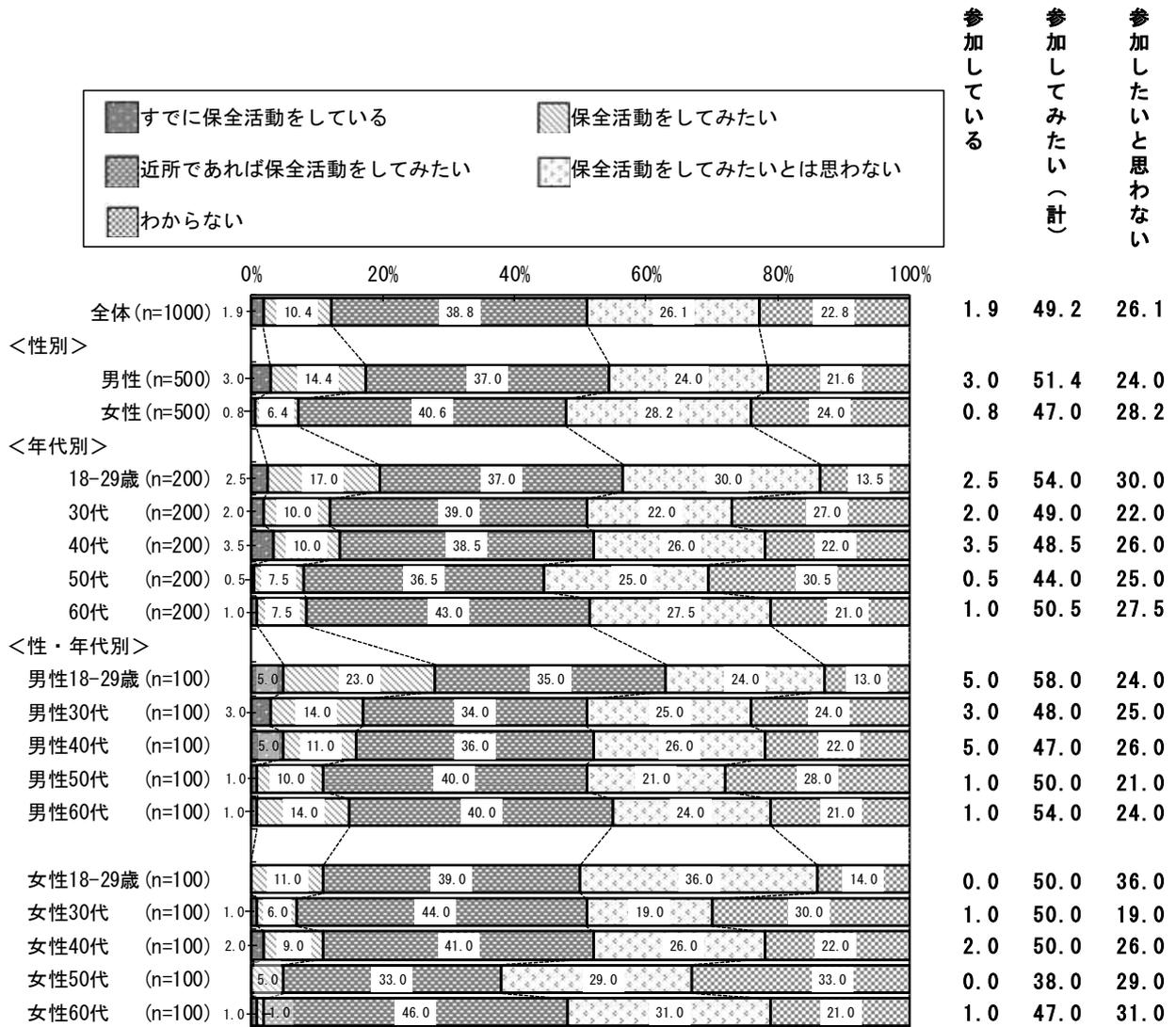
◎年代別で見ると、「歩しやすい散策路がある」、「保全活動などの取組が行われている」は、年代が上がるにつれ高くなった。

Q15. 公開型緑地での保全活動に参加したいか

さいたま市内の一部の公開型緑地では、ボランティアによる保全活動（樹木の剪定や下草刈り等）が行われています。

あなたは、公開型緑地での保全活動に参加してみたいと思いますか。

以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。

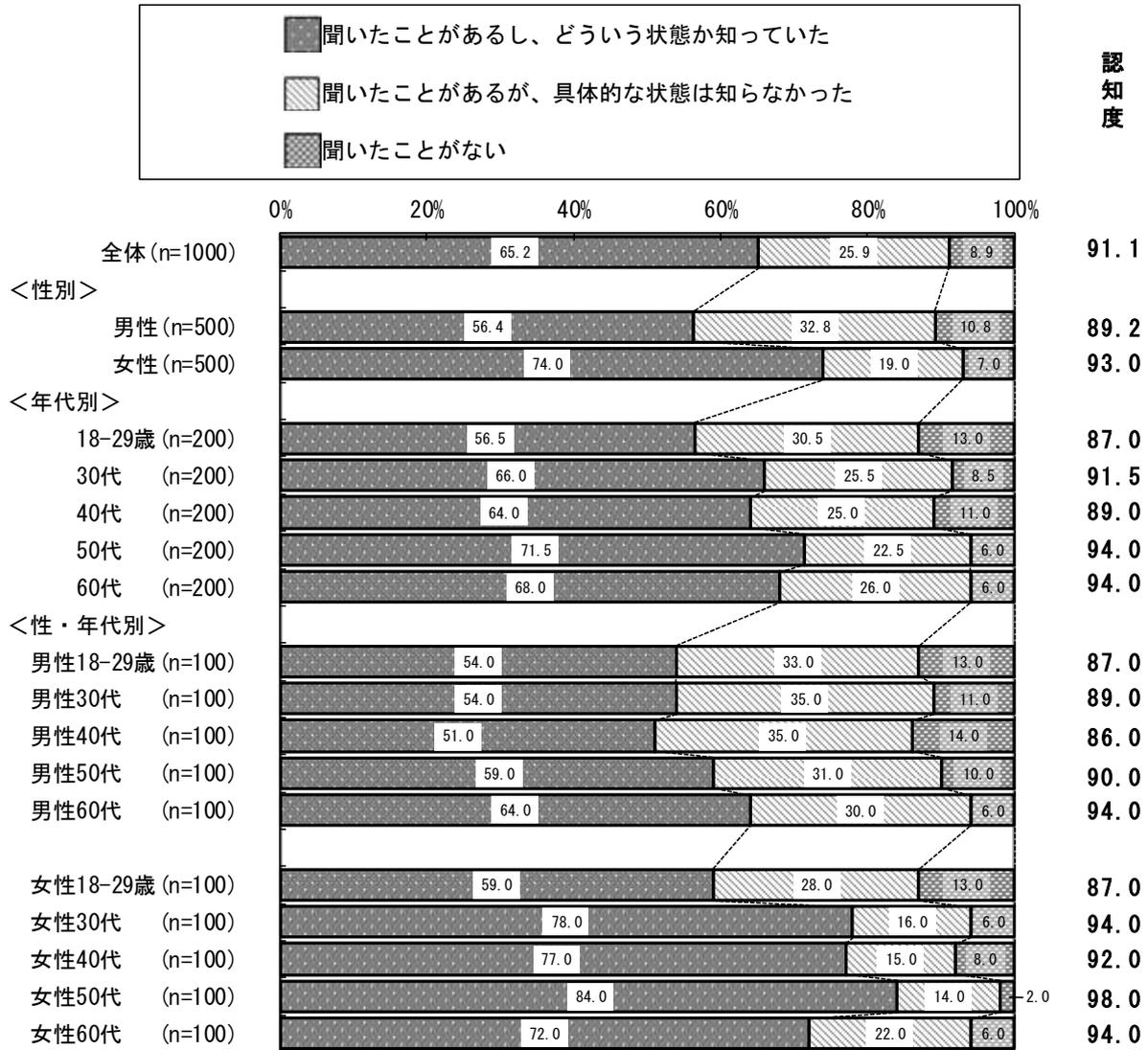


【全体結果】「保全活動をしてみたい」(10%)と「近所であれば保全活動をしてみたい」(39%)を合わせた『参加してみたい(計)』は、49%であった。

【「不妊症」「不育症」に関するアンケート】

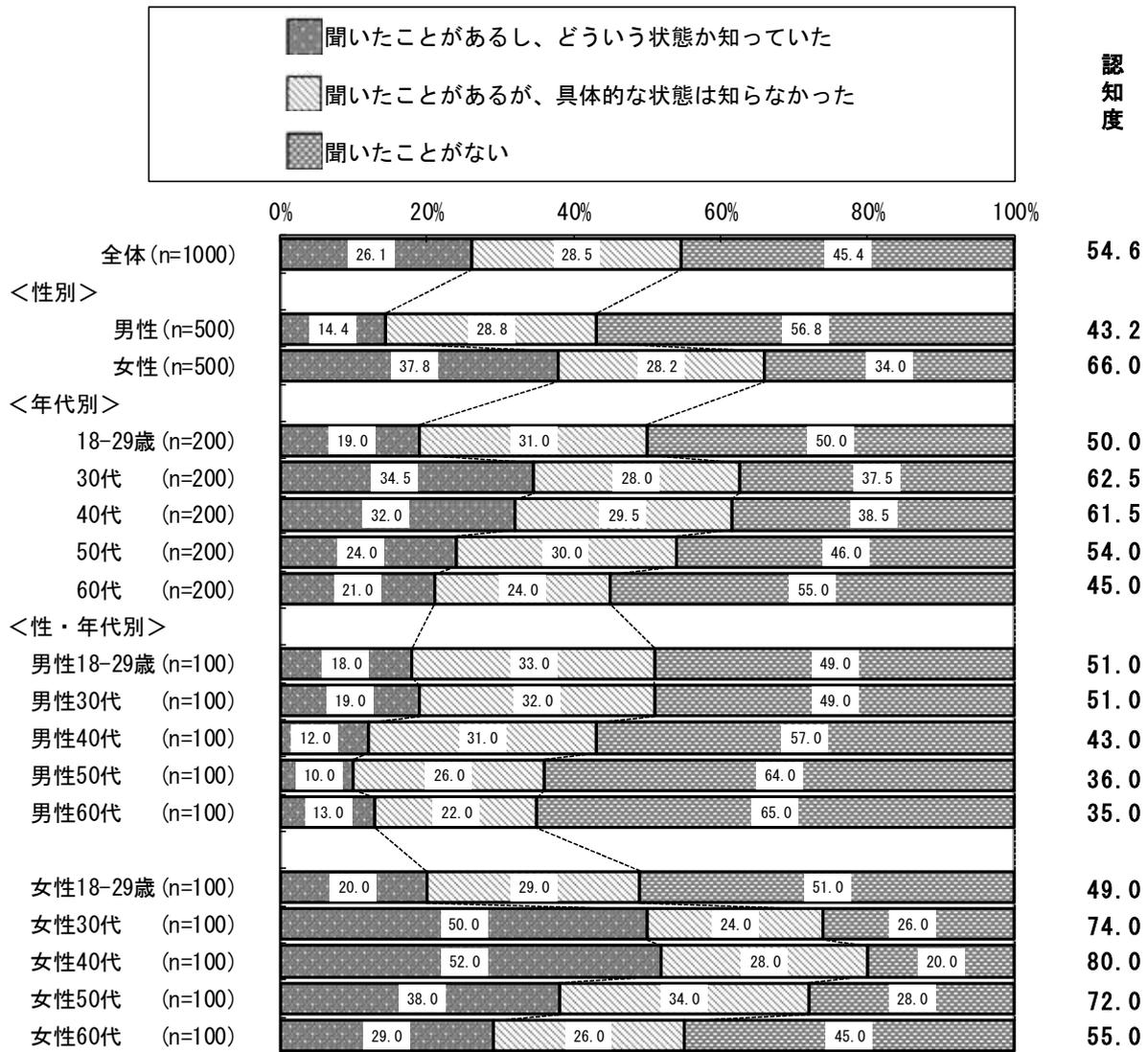
Q16. 「不妊症」「不育症」の認知度／1. 不妊症

あなたは、「不妊症」「不育症」という言葉を知っていましたか。
以下の中から、あてはまるものを1つずつ選んでください。



【全体結果】「聞いたことがあるし、どういう状態か知っていた」(65%)と「聞いたことがあるが、具体的な状態は知らなかった」(26%)を合わせた『認知度』は、91%であった。

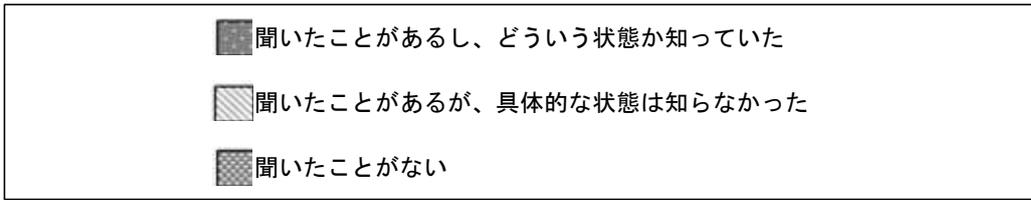
Q16. 「不妊症」「不育症」の認知度／2. 不育症



【全体結果】「聞いたことがあるし、どういう状態か知っていた」(26%)と「聞いたことがあるが、具体的な状態は知らなかった」(29%)を合わせた『認知度』は、55%であった。

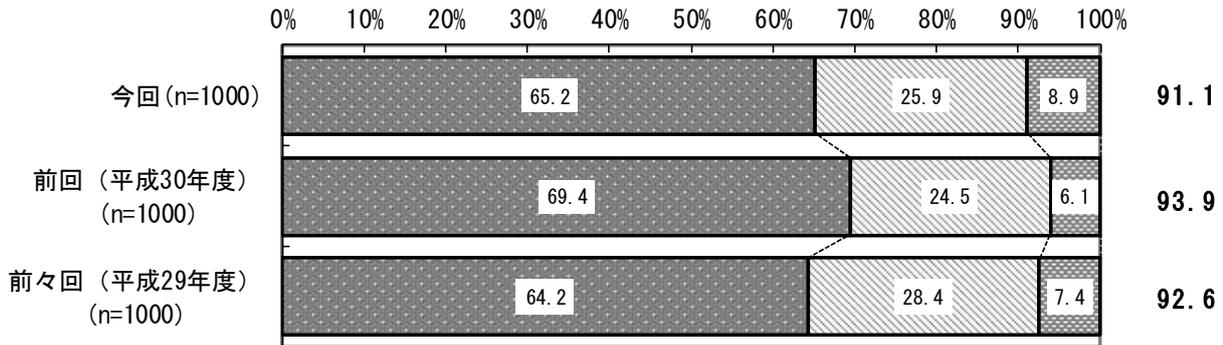
◎性別で見ると、『認知度』は、女性(66%)が男性(43%)よりも23ポイント高かった。
 ◎性・年代別で見ると、『認知度』は、男性では年代が下がるにつれ高くなる傾向があり、30代以下で51%となった。

Q16. 「不妊症」「不育症」の認知度（経年比較）

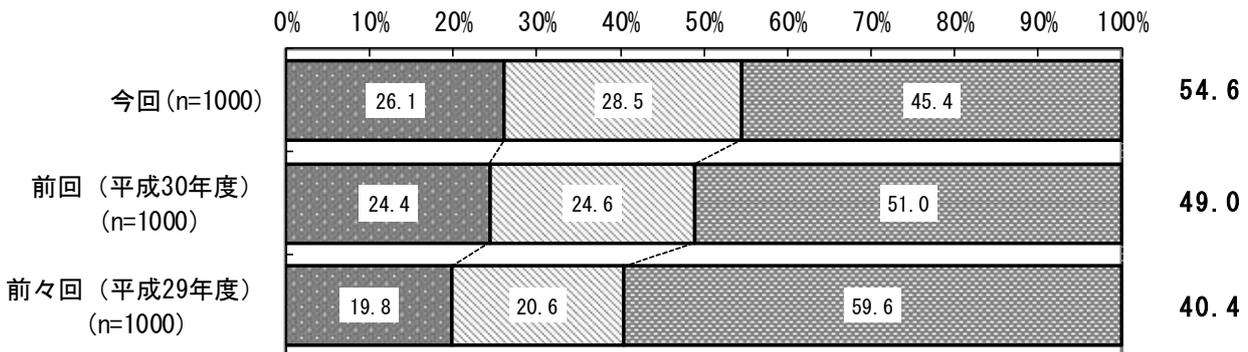


1. 不妊症

認知度



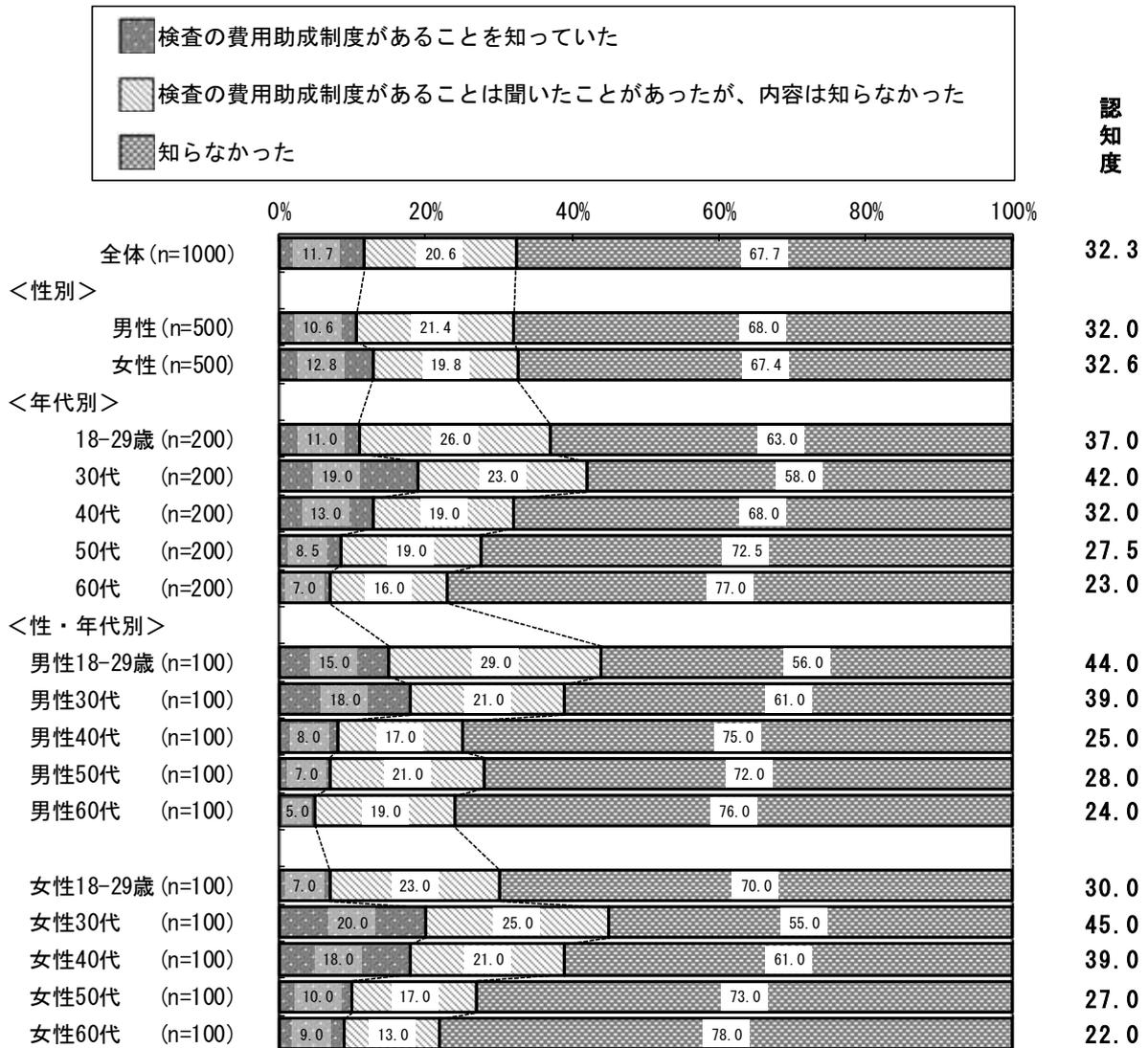
2. 不育症



【比較結果】 不妊症の『認知度』(91%)は、過去の同様の調査結果と、ほぼ同じであった。
不育症の『認知度』(55%)は、前回の調査結果(49%)よりも6ポイント増加した。

Q17. 「不妊症」「不育症」検査の費用助成制度の認知度

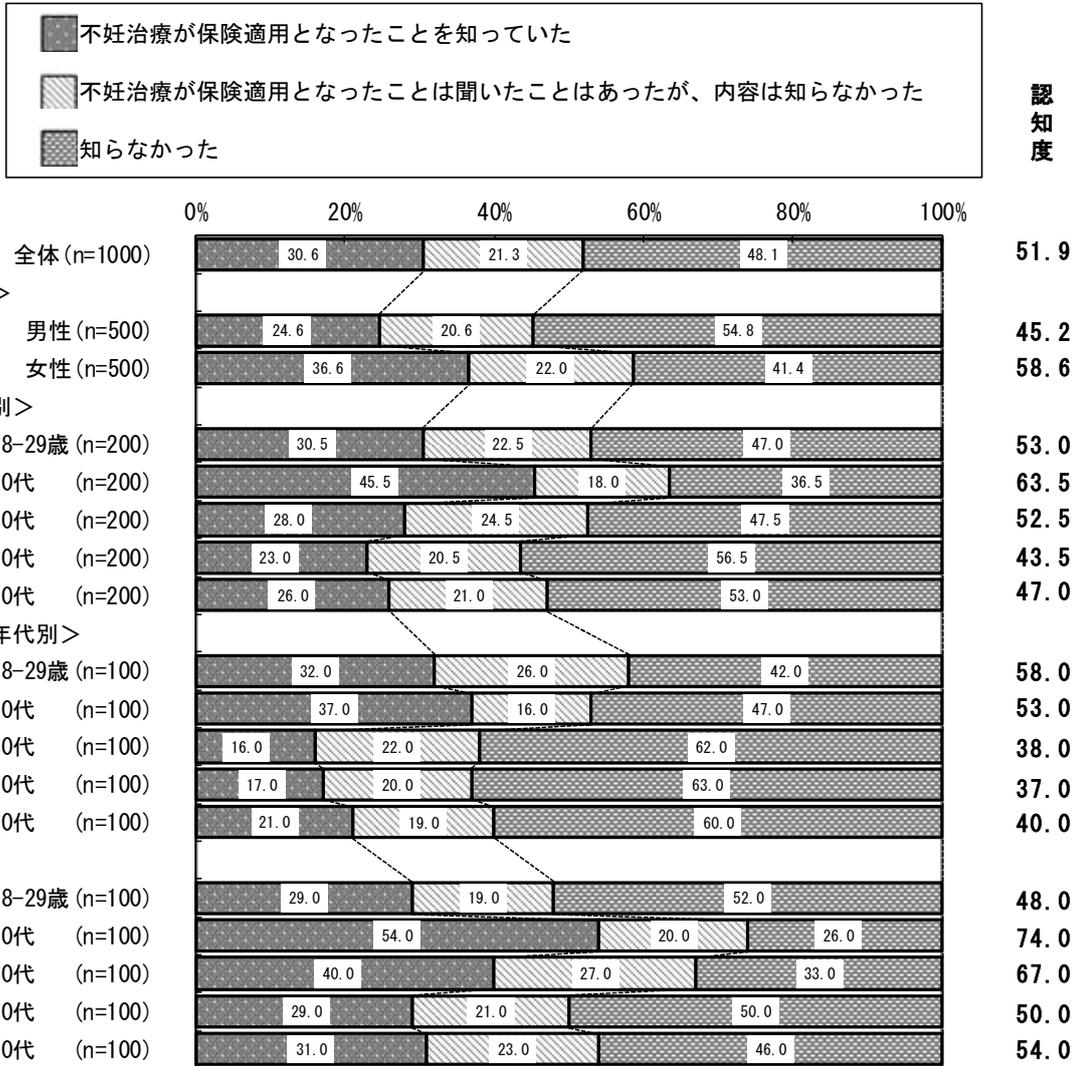
あなたは、さいたま市に「不妊症」「不育症」の検査に対する費用助成制度があることを知っていましたか。以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。



【全体結果】「検査の費用助成制度があることを知っていた」(12%)と「検査の費用助成制度があることは聞いたことがあったが、内容は知らなかった」(21%)を合わせた『認知度』は、32%であった。

Q18. 不妊治療が保険適用となったことの認知度

あなたは、令和4年4月1日から、不妊治療が保険適用となったことを知っていましたか。以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。



【全体結果】「不妊治療が保険適用となったことを知っていた」(31%)と「不妊治療が保険適用となったことは聞いたことはあったが、内容は知らなかった」(21%)を合わせた『認知度』は、52%であった。

◎性別で見ると、『認知度』は、女性(59%)が男性(45%)よりも14ポイント高かった。

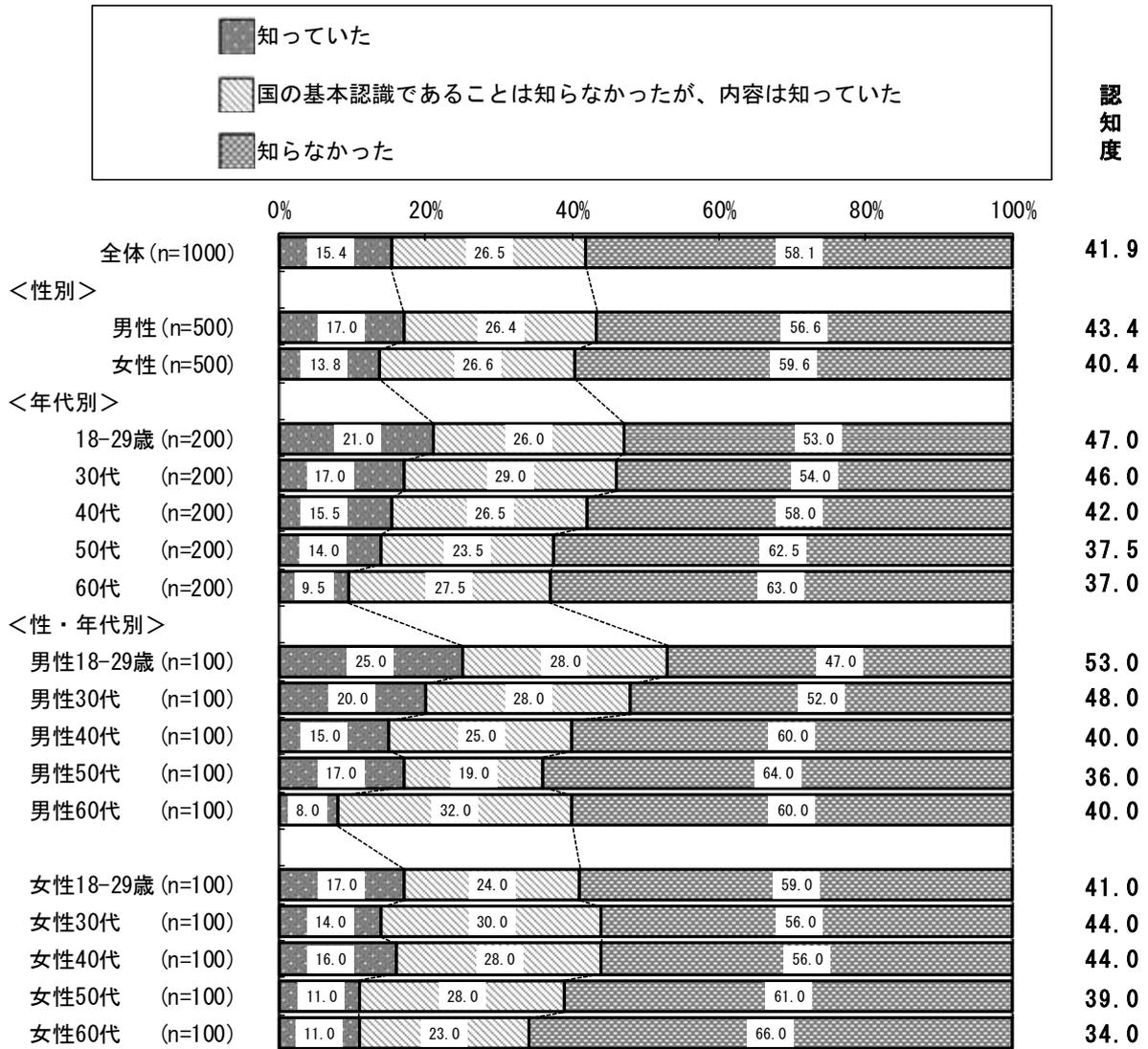
◎性・年代別で見ると、『認知度』は、女性30代(74%)のみ7割を超えた。

【自殺対策に関するアンケート】

Q19. 国の自殺対策の基本認識の認知度

国は、自殺対策の基本認識として、「自殺はその多くが追い込まれた末の死であり、その多くが防ぐことができる社会的な問題」と掲げています。あなたは、このことを知っていましたか。

以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。



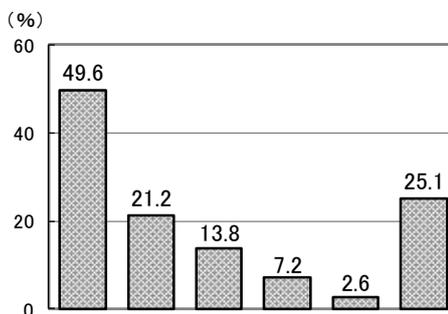
【全体結果】「知っていた」(15%)と「国の基本認識であることは知らなかったが、内容は知っていた」(27%)を合わせた『認知度』は、42%であった。

◎年代別で見ると、『認知度』は、年代が下がるにつれ高くなり、18-29歳で47%となった。

(Q19で、「知っていた」、「国の基本認識であることは知らなかったが、内容は知っていた」を回答した人が対象)

Q19-1. 国の自殺対策の基本認識をどのように知ったか (複数回答)

国の自殺対策の基本認識について、どうやって知りましたか。以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



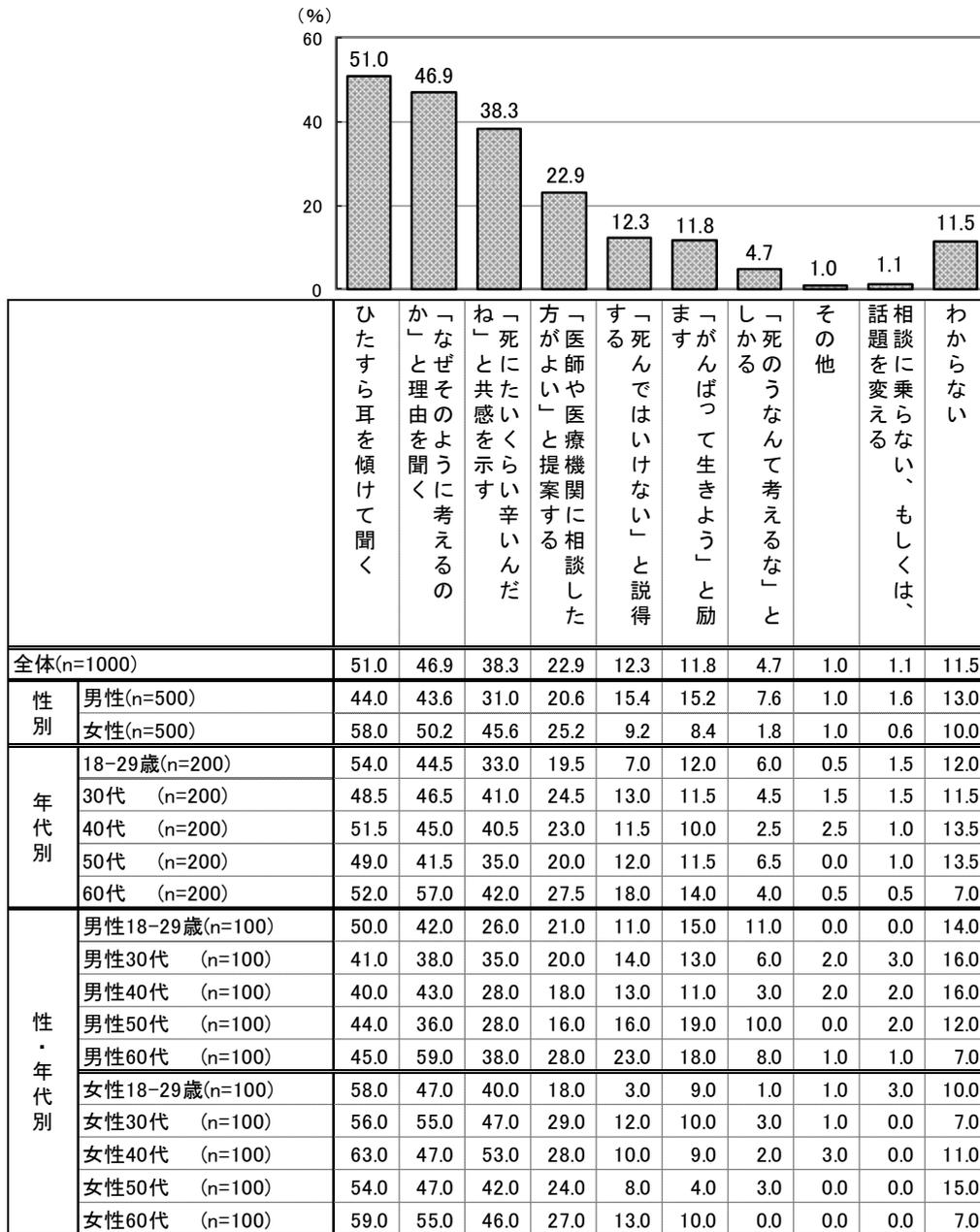
		新聞、テレビ、ラジオ、インターネット	市のホームページやパンフレット	市以外の、官公庁のホームページやパンフレット	市主催の講演会	その他	覚えていない、わからない
全体(n=419)		49.6	21.2	13.8	7.2	2.6	25.1
性別	男性(n=217)	50.2	25.3	16.6	10.6	1.8	19.8
	女性(n=202)	49.0	16.8	10.9	3.5	3.5	30.7
年代別	18-29歳(n=94)	36.2	27.7	19.1	13.8	4.3	25.5
	30代 (n=92)	35.9	23.9	21.7	10.9	2.2	30.4
	40代 (n=84)	52.4	23.8	11.9	6.0	2.4	28.6
	50代 (n=75)	57.3	14.7	5.3	1.3	1.3	25.3
	60代 (n=74)	73.0	13.5	8.1	1.4	2.7	13.5
性・年代別	男性18-29歳(n=53)	34.0	32.1	24.5	20.8	1.9	17.0
	男性30代 (n=48)	39.6	27.1	25.0	16.7	0.0	22.9
	男性40代 (n=40)	60.0	25.0	5.0	5.0	2.5	27.5
	男性50代 (n=36)	55.6	22.2	8.3	2.8	2.8	16.7
	男性60代 (n=40)	70.0	17.5	15.0	2.5	2.5	15.0
	女性18-29歳(n=41)	39.0	22.0	12.2	4.9	7.3	36.6
	女性30代 (n=44)	31.8	20.5	18.2	4.5	4.5	38.6
	女性40代 (n=44)	45.5	22.7	18.2	6.8	2.3	29.5
	女性50代 (n=39)	59.0	7.7	2.6	0.0	0.0	33.3
	女性60代 (n=34)	76.5	8.8	0.0	0.0	2.9	11.8

【全体結果】 自殺対策の基本認識を知っていた人 (419 人) に、その認知経路を聞いたところ、「新聞、テレビ、ラジオ、インターネット」が 50%で最も高く、「市のホームページやパンフレット」(21%)、「市以外の、官公庁のホームページやパンフレット」(14%)が続いた。

◎年代別で見ると、「市のホームページやパンフレット」は、年代が下がるにつれ高くなり、18-29 歳で 28%となった。

Q20. 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応（複数回答）

もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとしたら、あなたは、どのように対応しようと思いますか。以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

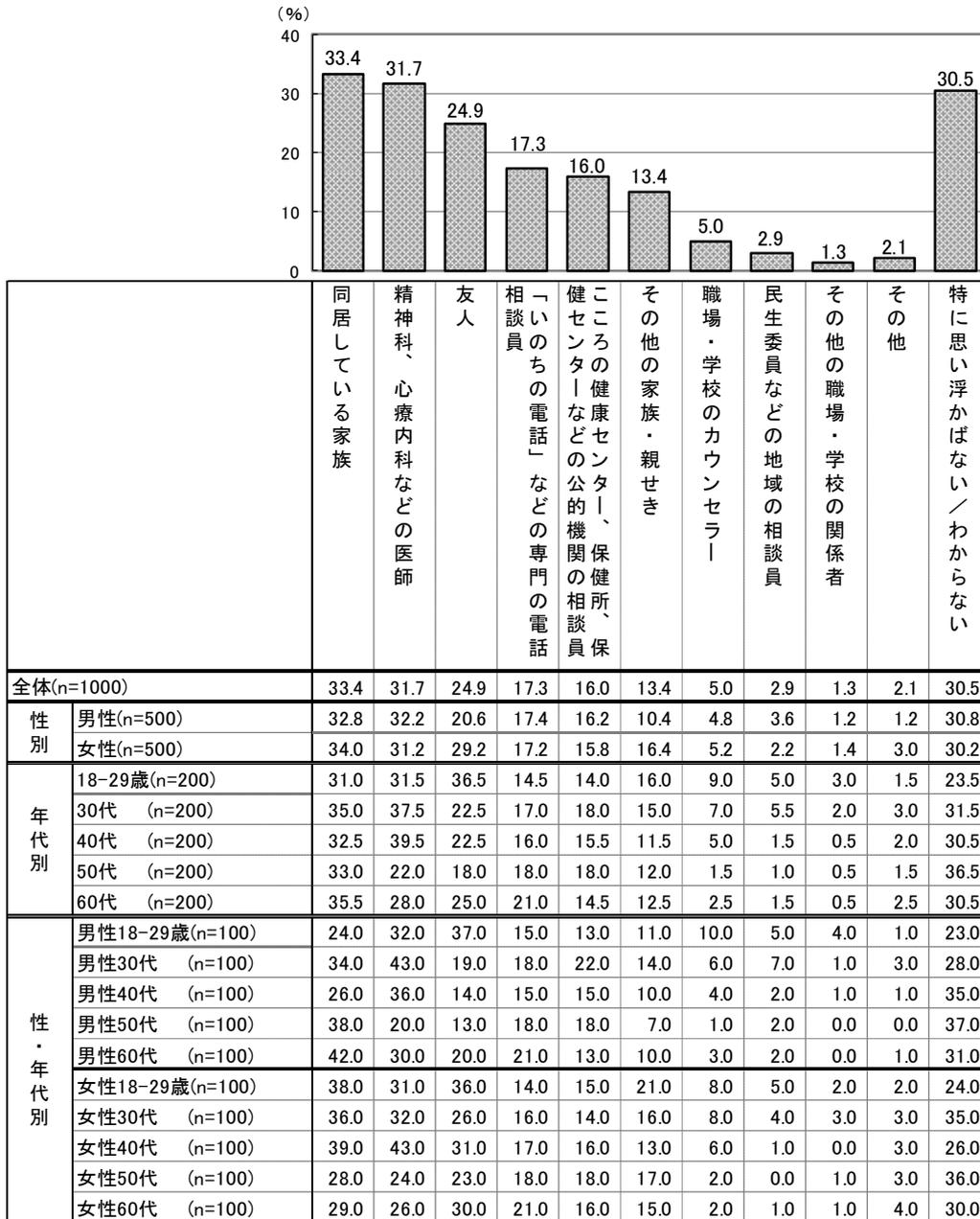


【全体結果】「ひたすら耳を傾けて聞く」が51%で最も高く、「「なぜそのように考えるのか」と理由を聞く」(47%)、「「死にたいくらい辛いんだね」と共感を示す」(38%)が続いた。

◎性別で見ると、上位3項目は、女性が男性よりも6ポイント以上高かった。

Q 2 1. 死んでしまいたいほどの悩みを抱えたときの相談先（複数回答）

もしも、あなたが死んでしまいたいほどの悩みを抱えていたとしたら、あなたは、だれに相談したいと思いますか。以下の中から、あてはまる人をすべて選んでください。



【全体結果】「同居している家族」が 33%で最も高く、「精神科、心療内科などの医師」(32%)、「友人」(25%) が続いた。
一方、「特に思い浮かばない／わからない」は、31%であった。

◎性別で見ると、「友人」は、女性 (29%) が男性 (21%) よりも 8ポイント高かった。

3 調査票（アンケート画面）

SC1
必須

あなたのお住まいをお答えください。

- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> 1.さいたま市西区 | <input type="radio"/> 6.さいたま市桜区 |
| <input type="radio"/> 2.さいたま市北区 | <input type="radio"/> 7.さいたま市浦和区 |
| <input type="radio"/> 3.さいたま市大宮区 | <input type="radio"/> 8.さいたま市南区 |
| <input type="radio"/> 4.さいたま市見沼区 | <input type="radio"/> 9.さいたま市緑区 |
| <input type="radio"/> 5.さいたま市中央区 | <input type="radio"/> 10.さいたま市岩槻区 |
| | <input type="radio"/> 11.その他（具体的に） |

SC2
必須

あなたの性別と年齢をお答えください。

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="radio"/> 男性 18歳未満 | <input type="radio"/> 女性 18歳未満 |
| <input type="radio"/> 男性 18～29歳 | <input type="radio"/> 女性 18～29歳 |
| <input type="radio"/> 男性 30～39歳 | <input type="radio"/> 女性 30～39歳 |
| <input type="radio"/> 男性 40～49歳 | <input type="radio"/> 女性 40～49歳 |
| <input type="radio"/> 男性 50～59歳 | <input type="radio"/> 女性 50～59歳 |
| <input type="radio"/> 男性 60～69歳 | <input type="radio"/> 女性 60～69歳 |
| <input type="radio"/> 男性 70～79歳 | <input type="radio"/> 女性 70～79歳 |
| <input type="radio"/> 男性 80歳以上 | <input type="radio"/> 女性 80歳以上 |

Q1 あなたは、現在SNSを利用していますか。
必須 以下の中から、利用しているものを**すべて**選んでください。

- 1. Twitter
- 2. Instagram
- 3. Facebook
- 4. LINE
- 5. その他
- 6. わからない
- 7. 利用していない

Q2 さいたま市では、SNSの公式アカウントを通して情報発信を行っています。
必須 あなたは、**さいたま市の公式アカウント**を利用したことがありますか。
以下の中から、利用したことがあるものを**すべて**選んでください。

- 1. Twitter
- 2. Instagram
- 3. Facebook
- 4. LINE
- 5. わからない／覚えていない
- 6. 利用したことはない

Q3 SNSのさいたま市公式アカウントを利用して、あなたが求めていた情報は手に入りましたか。
必須 以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。

- 1. 手に入った
- 2. だいたい手に入った
- 3. あまり手に入らなかった
- 4. まったく手に入らなかった
- 5. 覚えていない／わからない

Q4 SNSのさいたま市公式アカウントで発信してほしい情報は何ですか。
必須 以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1. イベント情報
- 2. 地域密着の情報
- 3. 行政サービスの情報
- 4. 公共施設の情報
- 5. 災害情報
- 6. 共通のテーマで投稿してもらう市民参加型の企画
- 7. その他
- 8. 知りたい情報はない

防犯カメラについて、質問します。

Q5 あなたは、ふだん街なかを歩いている、ご自身やご家族が犯罪に巻き込まれないか不安に思うことがありますか。以下の中から、1つだけ選んでください。
必須

- 1. いつも不安に思っている
- 2. とまどき不安に思うことがある
- 3. あまり不安に思うことはない
- 4. ほとんど不安に思うことはない
- 5. わからない

Q6 あなたは、市内の公共の場所（道路や駅前など）に防犯カメラが設置されることについて、どのように思いますか。以下の中から、1つだけ選んでください。
必須

- 1. できるだけ多くの場所に設置してほしい
- 2. 犯罪を防止するのに効果的な場所にだけ設置してほしい
- 3. 設置しないでほしい
- 4. わからない

Q7 あなたは防犯カメラにはどのような効果があると思いますか。以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1. 犯罪を未然に防ぐ
- 2. 安心感が得られる
- 3. 地域の防犯意識が高まる
- 4. 犯罪解決に役立つ
- 5. 効果があるとは思わない
- 6. わからない

Q8 現在、さいたま市では「さいたま市街頭防犯カメラシステム運用基準」に則り、大宮駅西口及び浦和駅東口に設置した街頭防犯カメラを運用しております。
あなたは、新たに公共の場所に防犯カメラが設置される場合に、設置者には、主にどういったことに注意してほしいと思いますか。以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1. 画像データの厳重な管理（機器の盗難、画像の流出対策など）
- 2. 人の居住空間が映りこまないような撮影方向
- 3. 設置・運用基準の明確化
- 4. 「防犯カメラ設置中」などの看板の明示
- 5. 有事、緊急時の画像の外部提供方法の厳守
- 6. 管理・運用責任者の指定
- 7. 問合せ先の明示
- 8. 苦情等への的確な対応
- 9. わからない

水道事業について、質問します。

Q9 水道事業について、あなたが知りたいのどのような情報ですか。
必須 以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1. 水質情報
- 2. 自身の水道料金
- 3. 自身の水道使用量
- 4. 災害時の応急給水に関する情報
- 5. ダムの貯水量
- 6. 水道の開閉栓や、料金支払い方法変更等の手続き方法
- 7. 水道局が主催するイベント情報
- 8. 水道局の経営状況、方針
- 9. 水道局の主な取組み
- 10. その他
- 11. 知りたい情報はない

Q10 あなたは、さいたま市の水道事業に関する情報を、どのような方法で入手していますか。
必須 以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1. さいたま市ホームページ
- 2. 「市報さいたま」、「さいたま市水道だより」などの市からの広報物
- 3. 「水道事業年報」などの水道局の刊行物
- 4. 水道局への電話やメールでのお問合せ
- 5. 水道メーター検針員（検針時に尋ねる）
- 6. SNS
- 7. 報道
- 8. その他
- 9. 収集していない

Q11 必須 あなたは、電力事業で導入されている、検針業務の自動化や電力使用量の見える化をするスマートメーターを知っていますか。以下の中から、1つだけ選んでください。

※ スマートメーターとは、短い時間間隔（30分単位など）で使った量が計測でき、その使った量を無線通信により取得できるメーターです。この機能を使い、スマホアプリなどで、その使った量をすぐに確認することができます。

- 1. 知っている
- 2. 「スマートメーター」という名前は知らないが、スマートメーターの機能がついた電力計があることは知っている
- 3. 知らない

Q12 必須 今後、水道事業においてもスマートメーターを導入できた場合、あなたが期待することは何ですか。以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1. 水道使用量や水道料金に関して、現時点と過去との比較ができる
- 2. 自身が気になったときに水道使用量や水道料金の確認ができる
- 3. 漏水や蛇口の閉め忘れ等の通知が届く
- 4. 検針時に検針員が自身の敷地内に入らなくなる
- 5. 電力やガスと同様に、水道料金の請求周期が2か月から1か月に変更される
- 6. 水道使用量をもとにした、クイズ等の市民参加型のキャンペーンが開催される
- 7. 水道使用状況をもとにした、離れて暮らす家族の見守り等の福祉的なサービスが実施される
- 8. 水道使用量のデータと他データとの連携による新しい市民サービスが実施される
- 9. 水道使用量が一定量を超えたときに通知が届く
- 10. 詳細な水道使用量情報をもとにした時間常別料金が導入される
- 11. 社会全体の水道使用実態がオープンデータ（※）として活用される
- 12. その他
- 13. わからない

※ オープンデータとは、行政機関等が保有するデータを機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータのことです。

オープンデータを推進することにより、行政の透明性・信頼性の向上、協働による地域課題の解決、地域経済の活性化などが期待されています。

オープンデータについては、以下のサイトでご覧になれます。

■さいたま市/オープンデータとは (city.saitama.jp)

市内の公開型緑地について、質問します。

公開型緑地とは、良好な自然環境を有する緑地であるとともに、市民の皆様が自由に散策することのできる緑のオープンスペースです。

<公開型緑地の例>



※さいたま市内の公開型緑地の詳しい所在地等については、以下のリンク先からご覧になれます。

■さいたま市／公開型緑地のご紹介 (city.saitama.jp)

Q13 あなたは、さいたま市内の公開型緑地を利用したいと思いますか。
必須 以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。

- 1. 利用したい
- 2. どちらかといえば利用したい
- 3. どちらかといえば利用したくない
- 4. 利用したくない
- 5. わからない

Q14 あなたは、どのような公開型緑地であれば利用してみたいと思いますか。
必須 以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1. ベンチなどがあって休息できる
- 2. 歩きやすい散策路がある
- 3. 日の光が差し込み見通しがよい
- 4. ほとんど手を入れず自然のままの緑地である
- 5. 植物や生物が観察できる
- 6. アクセスがよい
- 7. 誰でも参加可能なイベントが行われている
- 8. 保全活動などの取組が行われている
- 9. その他
- 10. どのような公開型緑地であっても利用してみたいとは思わない

Q15 さいたま市内の一部の公開型緑地では、ボランティアによる保全活動（樹木の剪定や下草刈り等）が行われています。
必須 あなたは、公開型緑地での保全活動に参加してみたいと思いますか。
以下の中から、あてはまるものを**1つだけ**選んでください。

- 1. すでに保全活動をしている
- 2. 保全活動をしてみたい
- 3. 近所であれば保全活動をしてみたい
- 4. 保全活動をしてみたいとは思わない
- 5. わからない

「不妊症」「不育症」について、質問します。
 ※このテーマは、全3問です。

「不妊症」とは、妊娠を望む健康な男女が一定期間（1年というのが一般的）妊娠しないものをいいます。
 「不育症」とは、2回以上の流産、死産、あるいは、早期新生児死亡（生後1週間以内の赤ちゃんの死亡）がある場合をいいます。

※詳しくは、以下のサイトからご覧になれます。

- [公益社団法人 日本産科婦人科学会／不妊症](#)
- [厚生労働省／健やか親子21 妊娠・出産・子育て期の健康に関する情報サイト](#)
- [さいたま市／不妊症・不育症を知ろう！](#)

Q16 あなたは、「不妊症」「不育症」という言葉を知っていましたか。
必須 以下の中から、あてはまるものを1つずつ選んでください。

	1.	2.	3.
	聞いたことがあるし、 どういふ状態か知っていた	聞いたことがあるが、 具体的な状態は知らなかった	聞いたことがない
1. 不妊症 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 不育症 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

さいたま市では、「不妊症・不育症の検査費用等」に対して費用助成制度を設けています。

【検査】さいたま市早期不妊検査費助成事業（このとり健診推進事業）・不育症検査費助成事業
 さいたま市では、不妊症等診断のための検査を実施した夫婦を対象に、検査にかかった費用の一部を助成しています。（要件あり・上限2万円）

※詳しくは、以下のサイトでご覧になれます。

- [さいたま市／さいたま市早期不妊検査費（このとり健診推進事業）・不育症検査費助成事業のお知らせ](#)

Q17 あなたは、さいたま市に「不妊症」「不育症」の検査に対する費用助成制度があることを知っていましたか。
必須 以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。

- 1. 検査の費用助成制度があることを知っていた
- 2. 検査の費用助成制度があることは聞いたことがあったが、内容は知らなかった
- 3. 知らなかった

【治療】保険適用

令和4年4月1日から、有効性・安全性等の確認がされたものについては保険診療に位置づけられるとともに、有効性・安全性等について、引き続きエビデンスの集積が必要とされたものの一部については先進医療として実施されます。

※詳しくは、以下のサイトでご覧になれます。

■厚生労働省／（リーフレット）不妊治療の保険適用

Q18 あなたは、令和4年4月1日から、不妊治療が保険適用となったことを知っていましたか。
必須 以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。

- 1. 不妊治療が保険適用となったことを知っていた
- 2. 不妊治療が保険適用となったことは聞いたことはあったが、内容は知らなかった
- 3. 知らなかった

全国では、平成10年に自殺者数が急増して3万人を超え、それ以降、近年でも毎年2万人あまりの人々が自殺によって命を落としています。

Q19 国は、自殺対策の基本認識として、「自殺はその多くが追い込まれた末の死であり、その多くが防ぐことができる社会的な問題」と掲げています。
必須 あなたは、このことを知っていましたか。
以下の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。

- 1. 知っていた
- 2. 国の基本認識であることは知らなかったが、内容は知っていた
- 3. 知らなかった

Q19-1 国の自殺対策の基本認識について、どうやって知りましたか。以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。
必須

- 1. 市のホームページやパンフレット
- 2. 市主催の講演会
- 3. 市以外の、官公庁のホームページやパンフレット
- 4. 新聞、テレビ、ラジオ、インターネット
- 5. その他
- 6. 覚えていない、わからない

Q20 必須 もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとしたら、あなたは、どのように対応しようと思いますか。以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1. 「死んではいけない」と説得する
- 2. 「死のうなんて考えるな」としかる
- 3. 「がんばって生きよう」と励ます
- 4. 「なぜそのように考えるのか」と理由を聞く
- 5. 「死にたいくらい辛いんだね」と共感を示す
- 6. 「医師や医療機関に相談した方がよい」と提案する
- 7. ひたすら耳を傾けて聞く
- 8. その他
- 9. 相談に乗らない、もしくは、話題を変える
- 10. わからない

Q21 必須 もしも、あなたが死んでしまいたいほどの悩みを抱えていたとしたら、あなたは、だれに相談したいと思いますか。以下の中から、あてはまる人を**すべて**選んでください。

- 1. 精神科、心療内科などの医師
- 2. こころの健康センター、保健所、保健センターなどの公的機関の相談員
- 3. 「いのちの電話」などの専門の電話相談員
- 4. 民生委員などの地域の相談員
- 5. 同居している家族
- 6. その他の家族・親せき
- 7. 友人
- 8. 職場・学校のカウンセラー
- 9. その他の職場・学校の関係者
- 10. その他
- 11. 特に思い浮かばない／わからない

このさいたま市インターネット市民意識調査業務の委託に要する経費は196万円です。